

目次

1. 工作機械統計・産業動向

- ◆米国工作機械受注統計(1月) 1
- ◆米国工作機械受注統計(地域別) 2
- ◆台湾工作機械輸出入統計(2025年12月) 2
- ◆韓国工作機械主要統計(2025年12月) 3
- ◆ドイツ工作機械主要統計(2025年) 6

2. 主要国・地域経済動向

- ◆米国：PMI 52.4%(2月) 10
- ◆中国製造業 PMI 49.0%(2月) 11
- ◆2025年中国工作機械市場 11
- ◆イタリア製造業、ハイパー減価償却法
地域要件撤廃 16
- ◆ハリー・モーザー氏、米国製造業の未来について
議会で演説 16
- ◆海外業界動向：
中国が自動車および工作機械生産量を記録 20
東南アジア 21
- ◆米国通商政策動向：
最新情報
国際貿易裁判所と輸入業者への関税還付 26
第122条の詳細について 27
日米貿易投資枠組み 29
IEEPA最高裁の判決を考慮して、最近発表された
予算および経済見通し 2026-2036年 30

3. 工作機械関連企業動向

- ◆DNソリューションズとHELLERの買収が完了 31
- ◆INDEX、バンガロール拠点開設で
インド事業を強化 32
- ◆Hurco社、2026会計年度第1四半期決算を発表 33

4. 展示会情報

- ◆BIEMH 2026、先進製造業における世界的
ベンチマークとしての役割を再確認し、閉幕 35
- ◆TMTS 2026が台中でスマート製造を
中心に据える 36
- ◆IMTEX2027 日本パビリオン出展募集 37

5. その他

- ◆ユーザー産業動向 39

6. 日工会外需状況(2月) 44

お知らせ

- ◆IMTS2026出品募集 46

1. 工作機械統計・産業動向

◆米国工作機械受注統計(1月)

AMT(米国製造技術工業協会)が発表した米国製造技術受注レポートによると、2026年1月時点での金属加工機械の新規受注額は4億4,140万ドルに達した。これは2025年12月の過去最高記録から45.8%減少し、2025年1月から24.4%の増加であった。2026年1月の発注台数は2024年7月以来の最低水準に落ち込み、ポストCOVIDのピーク後の谷に近い状態である。

毎年12月から1月まで、製造技術受注は減少している。2006年12月から2007年1月までの3.5%の減少は、記録された中で最も小さいデータであった。他年の1月の受注と比べて、2026年は2022年以来の最高額を記録したが、台数は2010年以来最も少なく、2008年の金融危機の底に近いものであった。

(USMTOレポート 2026年3月9日付)

米国工作機械受注統計

(金額単位：千ドル)

年 月	切削型受注		成形型受注	
	台 数	金 額	台 数	金 額
2025年 1月	1,526	350,654	18	4,234
2月	1,657	377,841	17	5,763
3月	1,891	505,403	17	12,481
4月	1,756	438,232	16	5,895
5月	1,503	382,506	21	11,218
6月	1,593	421,399	16	D
7月	1,576	387,377	8	D
8月	1,843	530,028	18	4,512
9月	1,794	481,733	28	12,428
10月	2,007	544,323	18	4,961
11月	1,643	432,440	20	3,729
12月	2,576	806,738	20	7,938
2026年 1月	1,467	430,148	18	11,280
平均	1,756	468,371	18	7,676

◆米国工作機械受注統計(地域別)

(金額単位：百万ドル)

地域別	2026年1月 (P)	2025年12月 (R)	前月比 (%)	前年同月		2026年累計(P)	2025年累計 (R)	前年同期比 (%)
				前年同月	前年同月比 (%)			
全米	441.4	814.7	-45.8	354.9	24.4	441.4	354.9	24.4
北東部	53.5	140.5	-61.9	49.4	8.3	53.5	49.4	8.3
南東部	55.3	123.4	-55.2	38.4	43.8	55.3	38.4	43.8
北中東部	96.9	146.3	-33.8	92.9	4.3	96.9	92.9	4.3
北中西部	86.8	105.4	-17.6	59.8	45.2	86.8	59.8	45.2
南中部	33.7	103.5	-67.4	27.8	21.1	33.7	27.8	21.1
西部	115.2	195.7	-41.1	86.5	33.2	115.2	86.5	33.2

P：暫定値 R：改定値
データは成型形含む

◆台湾工作機械輸出入統計(2025年12月)

台湾工作機械輸出入統計(2025年1-12月)

(単位：千USドル)

機 種 名	輸 出			輸 入		
	2024.1-12	2025.1-12	前年比(%)	2024.1-12	2025.1-12	前年比(%)
放電加工機・レーザ加工機	158,046	146,071	-7.6	233,483	252,891	8.3
マシニングセンタ	658,291	603,481	-8.3	72,695	120,934	66.4
旋盤	533,627	435,749	-18.3	64,974	48,135	-25.9
ボール盤・フライス盤・中ぐり盤	157,046	143,253	-8.8	15,929	10,765	-32.4
研削盤	214,599	219,749	2.4	57,831	37,850	-34.6
歯切り盤・歯車機械	113,001	102,380	-9.4	26,973	26,103	-3.2
切 削 型 合 計	1,834,610	1,650,683	-10.0	471,885	496,678	5.3

出所：TAMI

台湾工作機械国別輸出入統計(2025年1-12月)

(金額単位：千USドル)

輸 出						輸 入					
順位	国 別	2024.1-12	2025.1-12	割合(%)	前年比(%)	順位	国 別	2024.1-12	2025.1-12	割合(%)	前年比(%)
1	中 国	622,053	543,357	27.1	-12.7	1	日 本	218,516	251,455	39.1	15.1
2	米 国	341,265	318,049	15.9	-6.8	2	中 国	113,819	134,463	20.9	18.1
3	イ ン ド	145,756	144,953	7.2	-0.6	3	ベルギー	393	92,444	14.4	23,422.6
4	トルコ	192,286	142,157	7.1	-26.1	4	ド イ ツ	41,279	39,697	6.2	-3.8
5	ベトナム	89,589	98,140	4.9	9.5	5	ス イ ス	46,136	34,884	5.4	-24.4
6	タ イ	79,517	86,324	4.3	8.6	6	韓 国	46,446	23,016	3.6	-50.4
7	日 本	52,267	51,078	2.5	-2.3	7	タ イ	17,358	12,495	1.9	-28.0
8	オランダ	58,135	48,627	2.4	-16.4	8	米 国	13,800	11,678	1.8	-15.4
9	イタリア	43,811	43,217	2.2	-1.4	9	イスラエル	6,941	8,302	1.3	19.6
10	マレーシア	35,462	40,151	2.0	13.2	10	イタリア	16,209	8,022	1.2	-50.5
11	ド イ ツ	57,235	37,796	1.9	-34.0	11	台 湾	12,161	6,142	1.0	-49.5
12	韓 国	48,774	33,896	1.7	-30.5	12	シンガポール	1,075	4,847	0.8	350.9
13	英 国	38,471	33,788	1.7	-12.2	13	リトアニア	762	3,608	0.6	373.5
14	インドネシア	34,505	31,560	1.6	-8.5	14	オーストリア	3,061	2,856	0.4	-6.7
15	ブラジル	28,322	29,081	1.5	2.7	15	スウェーデン	5,169	2,002	0.3	-61.3
16	メキシコ	40,604	28,805	1.4	-29.1	16	ス ペ イ ン	450	1,621	0.3	260.2
17	オーストラリア	23,632	23,579	1.2	-0.2	17	チ ェ コ	1,541	1,515	0.2	-1.7
18	ベルギー	14,487	22,313	1.1	54.0	18	オランダ	1,140	934	0.1	-18.1
19	ポーランド	16,569	19,359	1.0	16.8	19	英 国	3,695	896	0.1	-75.8
20	カナダ	22,848	18,832	0.9	-17.6	20	デンマーク	233	703	0.1	201.7
21	フランス	24,493	17,862	0.9	-27.1		そ の 他	2,808	1,866	0.3	-33.5
22	スペイン	13,032	16,269	0.8	24.8						
23	南アフリカ	10,622	12,012	0.6	13.1						
24	シンガポール	10,296	11,831	0.6	14.9						
25	ウクライナ	5,941	10,663	0.5	79.5						
26	アラブ首長国	13,843	9,366	0.5	-32.3						
27	イスラエル	6,485	8,863	0.4	36.7						
28	ギリシャ	5,955	8,063	0.4	35.4						
29	チェコ	5,546	7,189	0.4	29.6						
30	サウジアラビア	7,001	7,064	0.4	0.9						
	そ の 他	129,132	99,768	5.0	-22.7						
	合 計	2,217,934	2,004,012	100.0	-9.6		合 計	552,992	643,446	100.0	16.4

出所：海関進出口統計月報

◆韓国工作機械主要統計(2025年12月)

韓国工作機械受注(2025年12月)

○業種別受注(2025.12)

(単位：百万ウォン)

需要業種	2025.11	2025.12	前月比(%)	2024.1-12	2025.1-12	前年同期比(%)
鉄鋼・非鉄金属	5,613	825	-85.3	40,497	43,045	6.3
金属製品	65	65	0.0	9,127	1,870	-79.5
一般機械	14,261	18,335	28.6	269,399	232,206	-13.8
電気機械	6,633	4,874	-26.5	117,384	83,293	-29.0
自動車	13,105	12,290	-6.2	372,416	340,990	-8.4
造船・輸送用機械	3,871	2,753	-28.9	85,192	51,065	-40.1
精密機械	2,343	7,886	236.6	49,871	62,313	24.9
その他製造業	4,166	2,669	-35.9	52,158	55,540	6.5
官公需・学校	313	300	-4.2	5,949	5,174	-13.0
商社・代理店	4,517	14,898	229.8	79,425	78,636	-1.0
その他	0	0	-	20,480	0	-
内 需 合 計	54,887	64,895	18.2	1,101,898	954,132	-13.4
外 需	130,425	213,083	63.4	1,883,213	2,013,459	6.9
総 合 計	185,312	277,978	50.0	2,985,111	2,967,591	-0.6

出所：韓国工作機械産業協会

○機種別受注(2025.12)

(単位：百万ウォン)

機 種	2025.11	2025.12	前月比(%)	2024.1-12	2025.1-12	前年同期比(%)
N C 小 合 計	182,044	275,629	51.4	2,923,318	2,907,354	-0.5
NC旋盤	90,133	143,827	59.6	1,404,735	1,458,460	3.8
マシニングセンタ	64,830	87,595	35.1	1,036,905	1,030,803	-0.6
NCフライス盤	900	0	-	7,430	5,463	-26.5
NC専用機	10,429	12,415	19.0	267,043	208,201	-22.0
NC中ぐり盤	4,680	8,774	87.5	86,039	85,670	-0.4
NCその他の工作機械	8,799	15,370	74.7	83,731	86,097	2.8
非 N C 小 合 計	2,174	1,316	-39.5	38,605	41,406	7.3
旋盤	429	540	25.9	12,515	14,876	18.9
フライス盤	578	290	-49.8	12,599	13,098	4.0
ボール盤	21	38	81.0	345	442	28.1
研削盤	1,146	448	-60.9	12,442	12,920	3.8
専用機	0	0	-	308	0	-
その他の工作機械	0	0	-	20	0	-
金 属 切 削 型	184,218	276,945	50.3	2,961,923	2,948,760	-0.4
金 属 成 形 型	1,094	1,033	-5.6	23,188	18,831	-18.8
総 合 計	185,312	277,978	50.0	2,985,111	2,967,591	-0.6

出所：韓国工作機械産業協会

韓国工作機械生産&出荷統計(2025年12月)

○生産(2025年12)

(単位：百万ウォン)

機 種 別	2025.11	2025.12	前月比(%)	2024.1-12	2025.1-12	前年同期比(%)
N C 小 合 計	156,765	162,332	3.6	2,282,609	2,057,850	-9.8
NC旋盤	69,181	75,509	9.1	1,091,715	951,960	-12.8
マシニングセンタ	57,602	54,345	-5.7	785,321	724,372	-7.8
NCフライス盤	680	381	-44.0	2,679	4,785	78.6
NC専用機	16,496	16,311	-1.1	242,558	241,096	-0.6
NC中ぐり盤	3,444	4,052	17.7	53,856	36,488	-32.2
NCその他	5,979	7,789	30.3	74,139	64,789	-12.6
非 N C 小 合 計	1,486	1,350	-9.2	39,646	31,005	-21.8
旋盤	208	0	-	11,080	3,203	-71.1
フライス盤	534	623	16.7	11,079	11,514	3.9
ボール盤	311	311	0.0	4,411	3,802	-13.8
研削盤	433	326	-24.7	8,251	7,919	-4.0
専用機	0	0	-	4,449	4,497	1.1
その他	0	0	-	0	0	-
金 属 切 削 型 合 計	158,251	163,682	3.4	2,322,255	2,088,855	-10.1
金 属 成 形 型 合 計	13,169	14,265	8.3	183,654	181,365	-1.2
総 合 計	171,420	177,947	3.8	2,505,909	2,270,220	-9.4

出所：韓国工作機械産業協会

○出荷(2025.12)

(単位：百万ウォン)

機 種 別	2025.11	2025.12	前月比(%)	2024.1-12	2025.1-12	前年同期比(%)
N C 小 合 計	219,380	310,797	41.7	2,993,646	2,862,087	-4.4
NC旋盤	109,493	156,487	42.9	1,448,385	1,413,515	-2.4
マシニングセンタ	78,022	110,114	41.1	1,113,985	1,019,974	-8.4
NCフライス盤	680	381	-44.0	2,679	4,785	78.6
NC専用機	16,496	16,311	-1.1	242,560	260,260	7.3
NC中ぐり盤	4,322	5,763	33.3	78,088	55,820	-28.5
NCその他	6,984	17,796	154.8	75,109	73,373	-2.3
非 N C 小 合 計	2,576	2,267	-12.0	47,350	51,483	8.7
旋盤	1,100	846	-23.1	16,537	21,068	27.4
フライス盤	562	656	16.7	11,258	11,972	6.3
ボール盤	418	349	-16.5	5,117	4,659	-9.0
研削盤	496	326	-34.3	9,589	9,217	-3.9
専用機	0	90	-	4,449	4,497	1.1
その他	0	0	-	24	0	-
金 属 切 削 型 合 計	221,956	313,064	41.0	3,040,996	2,913,570	-4.2
金 属 成 形 型 合 計	879	1,297	47.6	19,557	16,929	-13.4
総 合 計	222,835	314,361	41.1	3,060,553	2,930,499	-4.2

出所：韓国工作機械産業協会

韓国工作機械輸出統計(2025年12月)

○機種別輸出(2025.12)

(単位：千USドル)

機種別	2025.11	2025.12	前月比(%)	2024.1-12	2025.1-12	前年同期比(%)
N C 小 合 計	132,326	176,158	33.1	1,802,126	1,636,955	-9.2
NC旋盤	65,689	87,073	32.6	842,836	825,520	-2.1
マシニングセンタ	41,443	49,985	20.6	484,912	482,375	-0.5
NCフライス盤	1,250	621	-50.4	18,633	15,622	-16.2
NC専用機	0	926	-	39,617	12,772	-67.8
NC中ぐり盤	2,936	2,768	-5.7	55,924	32,290	-42.3
レーザ加工機	15,831	27,744	75.3	270,869	201,335	-25.7
NCその他	2,667	3,699	38.7	39,736	34,628	-12.9
非 N C 小 合 計	5,709	9,144	60.2	139,257	92,934	-33.3
旋盤	876	1,876	114.2	9,887	12,041	21.8
フライス盤	124	712	475.6	12,566	7,395	-41.2
ボール盤	433	412	-5.0	4,702	5,671	20.6
研削盤	431	1,321	206.7	19,769	11,235	-43.2
専用機	19	44	123.8	246	494	100.7
その他	2,848	2,702	-5.1	44,075	35,920	-18.5
金属切削型合計	138,035	185,302	34.2	1,941,383	1,729,889	-10.9
金属成型型合計	23,896	67,302	181.6	572,088	486,920	-14.9
総 合 計	161,932	252,603	56.0	2,513,470	2,216,809	-11.8

出所：韓国通関局

○仕向け国別輸出(2025.1-12)

(単位：千USドル)

機種別	アジア	中国	インド	アメリカ	欧州	ドイツ	トルコ
NC小合計	455,236	146,901	105,161	484,165	529,365	190,971	115,166
NC旋盤	154,231	58,116	51,651	248,065	356,097	129,753	85,451
マシニングセンタ	123,363	44,014	40,974	153,604	149,174	52,718	27,349
NCフライス盤	5,961	2,853	1,290	2,128	3,372	337	10
NC専用機	197	0	47	3	0	0	0
NC中ぐり盤	11,104	6,367	2,689	10,807	3,401	1,239	412
レーザ加工機	124,780	22,682	4,320	49,748	10,330	3,251	417
NCその他	11,439	1,479	1,158	17,355	3,549	3,286	0
非NC小合計	39,980	9,214	8,950	19,704	11,667	1,152	836
旋盤	4,014	89	1,679	380	1,511	31	116
フライス盤	3,342	657	619	1,846	848	193	342
ボール盤	1,892	24	461	1,902	229	174	0
研削盤	6,139	1,953	1,478	2,003	1,862	0	244
専用機	237	171	21	29	200	193	0
その他	14,121	4,918	1,044	11,342	1,979	299	19
金属切削型合計	495,216	156,115	114,111	503,869	541,032	192,123	116,002
金属成型型合計	208,589	53,282	64,455	115,293	78,963	6,539	11,545
総 合 計	703,805	209,397	178,566	619,163	619,995	198,659	127,546

出所：韓国通関局

韓国工作機械輸入統計(2025年12月)

○機種別輸入(2025.12)

(単位：千USドル)

機種別	2025.11	2025.12	前月比(%)	2024.1-12	2025.1-12	前年同期比(%)
N C 小 合 計	51,157	64,025	25.2	622,396	621,930	-0.1
NC旋盤	1,649	9,307	464.6	75,251	54,873	-27.1
マシニングセンタ	15,933	19,582	22.9	148,595	156,793	5.5
NCフライス盤	3,809	4,411	15.8	13,619	24,958	83.3
NC専用機	391	208	-46.8	2,167	3,508	61.9
NC中ぐり盤	168	104	-38.1	6,191	10,928	76.5
レーザ加工機	14,773	14,931	1.1	219,218	210,271	-4.1
NCその他	1,133	1,750	54.4	19,702	11,707	-40.6
非 N C 小 合 計	5,964	6,945	16.4	91,504	103,093	12.7
旋盤	626	859	37.3	7,817	6,506	-16.8
フライス盤	64	143	121.5	3,997	4,852	21.4
ボール盤	189	234	24.2	6,830	3,649	-46.6
研削盤	1,462	2,015	37.8	17,271	23,612	36.7
専用機	29	0	-	5,036	513	-89.8
その他	2,181	2,508	15.0	23,642	38,157	61.4
金属切削型合計	57,121	70,970	24.2	713,900	725,023	1.6
金属成型型合計	10,628	22,903	115.5	193,629	176,058	-9.1
総 合 計	67,749	93,873	38.6	907,529	901,082	-0.7

出所：韓国通関局

○輸入国別(2025.1-12)

(単位：千USドル)

機種別	アジア	日本	台湾	米国	欧州	ドイツ	イタリア
N C 小 合 計	451,223	209,728	22,184	24,110	142,007	76,925	14,523
NC旋盤	46,308	31,839	0	4,635	3,929	2,424	0
マシニングセンタ	125,057	94,483	15,748	3,705	28,031	24,336	1,014
NCフライス盤	4,440	311	50	24	19,793	6,980	20
NC専用機	724	399	0	0	2,783	280	1,474
NC中ぐり盤	2,322	1,393	0	0	8,603	470	4,454
レーザ加工機	176,621	29,465	839	2,914	29,276	13,038	1,457
NCその他	7,752	4,304	113	2,315	1,618	946	53
非 N C 小 合 計	71,840	36,413	7,380	3,266	25,982	16,976	623
旋盤	6,439	2,702	820	0	60	28	0
フライス盤	3,089	2,061	20	761	997	467	187
ボール盤	3,007	892	583	6	555	111	0
研削盤	20,376	12,709	3,129	187	3,050	400	8
専用機	428	338	0	55	30	0	5
その他	21,328	11,215	466	1,152	13,961	12,492	1
金 属 切 削 型	523,063	246,141	29,564	27,376	167,989	93,901	15,146
金 属 成 形 型	108,351	36,836	3,346	3,826	63,559	21,762	15,518
総 合 計	631,414	282,977	32,909	31,203	231,547	115,662	30,664

出所：韓国通関局

◆ドイツ工作機械主要統計(2025年)

	金額(百万ユーロ)					前年比(%)		
	2021	2022	2023	2024	2025 e	2023	2024	2025
生産合計	12,805	14,116	15,384	14,795	13,645	+9	-4	-8
機械合計	8,918	9,745	10,645	10,342	9,420	+9	-3	-9
切削型	6,576	7,432	8,330	7,941	7,100	+12	-5	-11
成形型	2,341	2,313	2,315	2,401	2,320	+0	+4	-3
部品・付属品	2,610	2,986	3,192	2,909	2,735	+7	-9	-6
設置・修理・メンテナンス	1,277	1,386	1,547	1,545	1,490	+12	-0	-4
受注額	13,580	15,800	14,130	11,380	11,045	-11	-19	-3
内需	3,940	4,640	3,970	3,620	3,030	-14	-9	-16
外需	9,640	11,160	10,160	7,760	8,015	-9	-24	+3
生産額(サービス除く)	11,528	12,730	13,837	13,250	12,155	+9	-4	-8
輸出	8,013	8,770	9,757	9,412	8,592	+11	-4	-9
国内販売	3,515	3,960	4,079	3,838	3,563	+3	-6	-7
輸入	2,959	3,661	3,741	3,160	2,992	+2	-16	-5
国内消費	6,474	7,621	7,821	6,998	6,555	+3	-11	-6
輸出比率(%)	69.5	68.9	70.5	71.0	70.7			
輸入比率(%)	45.7	48.0	47.8	45.2	45.6			
従業員数(年平均)	64,871	64,264	65,197	65,523	64,679	+1.5	+0.5	-1.3
(6月)				65,414	62,711			-4.1
企業数	298	286	277	276	277	-3.2	-0.2	+0.3
稼働率(年平均)	80.8	87.7	89.6	81.7	75.6	+1.9	-7.9	-6.1
(4月)				77.5	77.0			-0.5

出所：VDW、VDMA、ドイツ連邦統計局

ドイツ工作機械生産統計(2025年第1-3四半期)

	金額(百万ユーロ)					前年比(%)		シェア(%)	
	2021	2022	2023	2024	1-3Q2 025	2024/2023	2025/2024	2024	2025
工作機械総合計	12,805.3	14,116.0	15,383.6	14,795.3	9,584.8	-4	-9	100.0	100.0
金属切削型合計	6,456.4	7,188.9	8,036.7	7,713.3	4,751.1	-4	-12	52.1	49.6
レーザー加工機、放電加工機、超音波加工機	816.2	834.5	968.1	887.6	599.7	-8	-7	6.0	6.3
マシニングセンタ	1,734.2	2,162.2	2,319.5	2,071.4	1,307.0	-11	-4	14.0	13.6
トランスファーマシン	410.0	173.9	180.8	285.0	81.9	58	-66	1.9	0.9
旋盤	967.2	1,096.9	1,245.0	1,141.3	721.4	-8	-8	7.7	7.5
ボール盤、中ぐり盤、中ぐりフライス盤	161.8	171.9	160.4	137.2	105.2	-15	0	0.9	1.1
フライス盤	860.6	946.1	1,085.5	1,041.0	612.6	-4	-19	7.0	6.4
研削盤、ホーニング盤、ラップ盤	820.3	969.5	1,108.3	1,099.1	626.2	-1	-15	7.4	6.5
歯切り盤	440.8	570.3	647.3	741.4	483.6	15	-10	5.0	5.0
金切り盤及び切断機	185.4	204.8	246.8	225.8	125.5	-9	-22	1.5	1.3
その他の工作機械	60.1	58.6	75.0	83.6	87.9	12	38	0.6	0.9
金属成形型合計	2,341.4	2,312.7	2,315.2	2,400.7	1,514.1	4	-10	16.2	15.8
アディティブマニュファクチャリング	120.0	243.0	292.9	227.6	197.2	-22	19	1.5	2.1
工作機械用部品	2,610.5	2,985.6	3,191.8	2,908.8	2,042.0	-9	-7	19.7	21.3
工作機械の設置、修理、メンテナンス	1,276.9	1,385.8	1,547.1	1,544.9	1,080.5	0	-3	10.4	11.3

出所：VDW、VDMA、ドイツ連邦統計局

ドイツ工作機械国別輸出統計(2025年)

(金額単位：百万ユーロ)

国別	2023	2024	2025	% 24/23	% 25/24	% 2024	% 2025
合計	8,017.4	7,751.0	6,976.4	-3	-10	100.0	100.0
1. 米国	1,207.3	1,458.5	1,300.6	21	-11	18.8	18.6
2. 中国	1,405.2	1,305.9	1,046.9	-7	-20	16.8	15.0
3. イタリア	540.8	329.9	448.5	-39	36	4.3	6.4
4. インド	216.7	274.6	293.2	27	7	3.5	4.2
5. ポーランド	351.8	267.4	270.7	-24	1	3.4	3.9
6. フランス	369.5	328.5	258.6	-11	-21	4.2	3.7
7. メキシコ	277.1	246.0	228.2	-11	-7	3.2	3.3
8. トルコ	302.4	223.9	220.6	-26	-2	2.9	3.2
9. スイス	273.8	266.2	197.3	-3	-26	3.4	2.8
10. オランダ	217.1	159.4	194.3	-27	22	2.1	2.8
11. オーストリア	326.3	234.3	190.1	-28	-19	3.0	2.7
12. チェコ	233.9	216.2	185.0	-8	-14	2.8	2.7
13. 英国	204.9	191.9	167.3	-6	-13	2.5	2.4
14. スペイン	188.5	198.4	157.2	5	-21	2.6	2.3
15. スウェーデン	145.3	134.5	153.9	-7	14	1.7	2.2
16. ハンガリー	140.4	214.2	129.5	53	-40	2.8	1.9
17. 日本	149.9	149.8	127.7	0	-15	1.9	1.8
18. カナダ	76.8	98.8	123.1	29	25	1.3	1.8
19. スロバキア	86.3	81.1	102.8	-6	27	1.0	1.5
20. 韓国	101.6	124.6	91.0	23	-27	1.6	1.3
21. ベルギー	100.4	91.6	89.4	-9	-2	1.2	1.3
22. ルーマニア	93.6	69.3	75.8	-26	9	0.9	1.1
23. デンマーク	63.2	56.9	60.8	-10	7	0.7	0.9
24. ブラジル	67.4	97.1	57.9	44	-40	1.3	0.8
25. ウクライナ	28.9	37.2	57.2	29	54	0.5	0.8
26. ポルトガル	56.8	52.3	50.7	-8	-3	0.7	0.7
27. フィンランド	59.6	38.0	47.2	-36	24	0.5	0.7
28. サウジアラビア	17.2	36.1	46.5	109	29	0.5	0.7
29. スロベニア	70.7	48.5	45.1	-32	-7	0.6	0.6
30. ノルウェイ	30.7	25.9	42.5	-15	64	0.3	0.6

出所：連邦統計局、VDMA、VDW

ドイツ工作機械国別輸入統計(2025年)

(金額単位：百万ユーロ)

国 別	2023	2024	2025	% 24/23	% 25/24	% 2024	% 2025
合 計	2,722.2	2,285.9	2,128.7	-16	-7	100.0	100.0
1. ス イ ス	748.3	635.6	545.0	-15	-14	27.8	25.6
2. 日 本	343.2	280.6	226.3	-18	-19	12.3	10.6
3. イ タ リ ア	220.0	206.3	191.8	-6	-7	9.0	9.0
4. 中 国	173.7	148.0	185.5	-15	25	6.5	8.7
5. 韓 国	180.4	138.1	160.4	-24	16	6.0	7.5
6. オーストリア	148.1	146.1	112.1	-1	-23	6.4	5.3
7. チェコ	111.1	105.4	91.1	-5	-14	4.6	4.3
8. スペイン	88.6	78.5	82.2	-11	5	3.4	3.9
9. 米 国	82.8	52.7	70.3	-36	33	2.3	3.3
10. 台 湾	106.8	81.6	68.2	-24	-17	3.6	3.2
11. 英 国	67.6	66.7	49.3	-1	-26	2.9	2.3
12. フランス	40.2	37.7	41.7	-6	11	1.6	2.0
13. スロバキア	42.7	39.9	41.4	-7	4	1.7	1.9
14. ブルガリア	25.8	24.0	33.6	-7	40	1.1	1.6
15. ポーランド	64.9	38.2	30.5	-41	-20	1.7	1.4
16. オランダ	19.9	24.6	29.6	24	20	1.1	1.4
17. スウェーデン	25.7	11.8	27.3	-54	131	0.5	1.3
18. タ イ	24.4	15.6	23.6	-36	51	0.7	1.1
19. トルコ	49.8	37.1	23.3	-26	-37	1.6	1.1
20. ブラジル	46.0	11.7	12.6	-75	8	0.5	0.6
21. シンガポール	24.5	12.5	10.7	-49	-16	0.5	0.5
22. スロベニア	10.2	8.4	8.8	-18	5	0.4	0.4
23. ハンガリー	2.7	7.0	7.8	156	12	0.3	0.4
24. ベルギー	17.6	18.7	7.5	6	-60	0.8	0.4
25. デンマーク	4.1	3.6	6.4	-14	78	0.2	0.3
26. インド	5.8	6.3	6.2	9	-3	0.3	0.3
27. フィンランド	12.5	9.6	5.0	-24	-47	0.4	0.2
28. クロアチア	4.1	4.4	4.4	7	1	0.2	0.2
29. オーストラリア	9.4	8.4	3.5	-11	-59	0.4	0.2
30. カナダ	1.2	4.8	3.1	316	-35	0.2	0.1

出所：連邦統計局、VDMA、VDW

ドイツ工作機械機種別輸出統計(2025年)

	金額(百万ユーロ)					前年比(%)		シェア(%)	
	2021	2022	2023	2024	2025	2024/2023	2025/2024	2024	2025
工作機械総合計	8,013.3	8,770.4	9,757.2	9,411.9	8,591.9	-4	-9	100.0	100.0
金属切削型合計	5,161.3	5,693.1	6,313.1	5,925.6	5,345.3	-6	-10	63.0	62.2
特殊加工機	1,024.4	1,195.3	1,269.4	1,085.1	1,065.3	-15	-2	11.5	12.3
マシニングセンタ	1,520.9	1,691.4	1,917.5	1,668.8	1,643.7	-13	-2	17.7	19.1
トランスファーマシン	126.8	102.4	141.9	135.2	104.1	-5	-23	1.4	1.2
旋盤	740.6	766.8	781.7	799.3	660.6	2	-17	8.5	7.7
ボール盤、中ぐり盤、中ぐりフライス盤	170.5	172.3	222.3	184.0	200.3	-17	9	2.0	2.3
フライス盤	291.3	311.7	302.6	280.0	263.9	-8	-6	3.0	3.1
研削盤、ホーニング盤、ラップ盤	700.4	759.0	893.7	895.0	679.5	0	-24	9.5	7.9
歯切り盤	371.7	486.8	547.7	603.1	535.2	10	-11	6.4	6.2
金切り盤及び切断機	137.6	147.5	168.4	179.2	128.9	6	-28	1.9	1.5
その他の工作機械	77.1	59.8	67.9	95.8	64.0	41	-33	1.0	0.7
金属成形型合計	1,392.5	1,288.8	1,511.4	1,558.0	1,354.4	3	-13	16.6	15.8
アディティブマニュファクチャリング	-	212.0	192.9	267.4	276.7	39	4	2.8	3.2
工作機械用部品	1,459.5	1,576.5	1,739.8	1,661.0	1,615.5	-5	-3	17.6	18.8

出所：VDW、VDMA、ドイツ連邦統計局

ドイツ工作機械輸入統計(2025年)

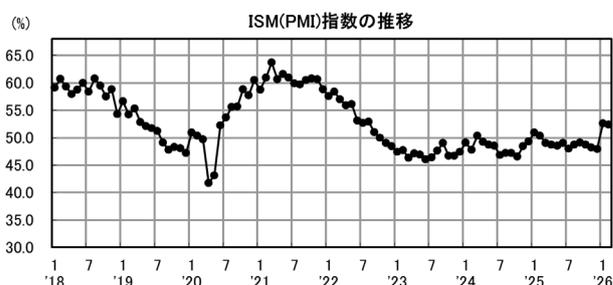
	金額(百万ユーロ)					前年比(%)		シェア(%)	
	2021	2022	2023	2024	2025	2024/2023	2025/2024	2024	2025
工作機械総合計	2,958.5	3,661.2	3,741.5	3,159.8	2992.3	-16	-5	100.0	100.0
金属切削型合計	1,672.2	2,183.1	2,196.2	1,821.7	1,729.0	-17	-5	57.7	57.8
特殊加工機	495.7	581.2	597.5	439.7	464.2	-26	6	13.9	15.5
マシニングセンタ	263.5	414.3	436.9	338.9	305.7	-22	-10	10.7	10.2
トランスファーマシン	41.0	67.3	42.1	50.1	19.3	19	-61	1.6	0.6
旋盤	384.4	546.6	535.8	433.6	426.4	-19	-2	13.7	14.2
ボール盤、中ぐり盤、中ぐりフライス盤	77.8	104.9	78.6	81.1	76.6	3	-6	2.6	2.6
フライス盤	64.2	74.1	65.1	71.6	61.0	10	-15	2.3	2.0
研削盤、ホーニング盤、ラップ盤	265.2	290.8	327.1	300.2	296.3	-8	-1	9.5	9.9
歯切り盤	27.0	43.5	51.7	46.6	20.4	-10	-56	1.5	0.7
金切り盤及び切断機	43.0	49.3	51.3	49.8	48.2	-3	-3	1.6	1.6
その他の工作機械	10.6	11.1	10.1	10.0	11.1	-1	11	0.3	0.4
金属成形型合計	429.6	476.6	509.2	438.3	366.5	-14	-16	13.9	12.2
アディティブマニュファクチャリング	-	8.9	16.8	26.0	33.1	54.4	27.6	0.8	1.1
工作機械用部品	856.8	992.5	1,019.3	873.9	863.6	-14	-1	27.7	28.9

出所：VDW、VDMA、ドイツ連邦統計局

2. 主要国・地域経済動向

◆米国：PMI 52.4%（2月）

2月の製造業PMI®は52.4%となり、1月の52.6%から0.2%ポイント低下した。経済全体は16ヶ月連続で拡大した。（製造業PMI®が一定期間にわたって47.5%を超える場合、一般的に経済全体の拡大を示している。）新規受注指数は、4ヶ月連続の縮小の後、2ヶ月連続で拡大し、55.8%となり、1月の57.1%から1.3%ポイント低下した。2月の生産指数(53.5%)は、1月の55.9%から2.4%ポイント低下した。物価指数は引き続き拡大(または「増加」)領域にあり、70.5%となり、1月の59%から11.5%ポイント上昇し、2022年6月(78.5%)以来の高水準となりました。受注残指数は56.6%となり、1月の51.6%から5ポイント上昇し、2022年5月(58.7%)以来の高水準となった。雇用指数は48.8%となり、1月の48.1%から0.7ポイント上昇した。



2月の米国の製造業活動は、前月よりも成長率が鈍化したものの、引き続き拡大領域にあった。PMI®を構成する5つのサブ指数のうち、2つ(新規受注と生産)は前月比で成長が鈍化し、雇用指数と在庫指数は引き続き縮小した。

製造業経済を見ると、2月の国内総生産(GDP)は21%減少し、1月の20%から減少した。また、製造業GDPに占める大幅な縮小(複合PMI®が45%以下と定義)の割合は、1月の12%から1%に減少した。

2月に成長を報告した12の製造業種は、印刷および関連支援事業、繊維工場、一次金属、非金属鉱物、化学製品、機械、電気機器・器具・部品、金属加工製品、輸送機器、プラスチック・ゴム製品、その他製造業、コンピュータ・電子製品。

ISMが発表した2月の主要個別指数の前月比変動傾向は以下の通り。

項目	2026年2月指数(%)	2026年1月指数(%)	備考
ISM指数(PMI)	52.4	52.6	前月比0.2ポイント減。PMIが50%を上回ると製造業の拡大を示唆。
新規受注	55.8	57.1	前月比1.3ポイント減。拡大の基準は52.1である。12業種が増加を報告した。
生産	53.5	55.9	前月比2.4ポイント減。拡大の基準は、52である。9業種が増加を報告。
雇用	48.8	48.1	前月比0.7ポイント増。7業種が増加を報告した。
入荷遅延	55.1	54.4	前月比0.7ポイント増。長期化の基準は、50以上。18業種中11業種が長期化を報告した。
在庫	48.8	47.6	前月比1.2ポイント増。拡大の基準44.5ポイントを上回った。4業種が在庫増を報告した。
顧客在庫	38.8	38.7	前月比0.1ポイント増。1業種が増加を報告した。
仕入れ価格	70.5	59.0	前月比11.5ポイント増。14業種が増加を報告した。
受注残	56.6	51.6	前月比5.0ポイント増。11業種が増加を報告した。
輸出受注	50.3	50.2	前月比0.1ポイント増。6業種が増加を報告した。
原材料輸入	54.9	50.0	前月比4.9ポイント増。8業種が増加を報告した。

*PMIは季節修正値

(ISM Manufacturing Report on Business 2026年3月2日付)

◆中国製造業 PMI 49.0% (2月)

2月の中国製造業購買者指数(PMI)は49.0%で、前月比0.3ポイント低下し、製造業環境のわずかな弱体化を示している。

企業規模別では、大企業のPMIは51.5%で、前月比1.2ポイント上昇(閾値を超えていた)。一方、中小企業のPMIは47.5%と44.8%で、前月比でそれぞれ1.2ポイントと2.6ポイントの減少となり、閾値を下回った。

製造業PMIを構成する5つのサブ指数のうち、生産指数、新規受注指数、原材料在庫指数、雇用指数、サプライヤー納品時間指数はいずれも閾値を下回っていた。

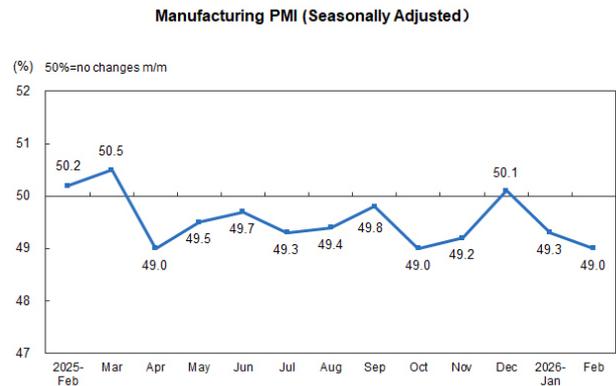
生産は49.6%で、前月比1.0ポイントの低下となり、製造業の生産活動が緩和していることを示した。

新規受注は48.6%で、前月比0.6ポイントの減少となり、製造業の市場需要環境の低下を示している。

原材料在庫は47.5%で、前月比0.1ポイント上昇し、製造業の主要原材料在庫減少がわずかに縮小したことを示している。

雇用は48.0%で、前月比0.1ポイントの低下となり、製造業の雇用環境がわずかに悪化していることを示した。

サプライヤー納品は49.1%で、前月比1.0ポイント減少し、製造業の原材料供給者の納品時間が前月より延長されたことを示している。



(Bureau of Statistics of China 2026年3月1日付)

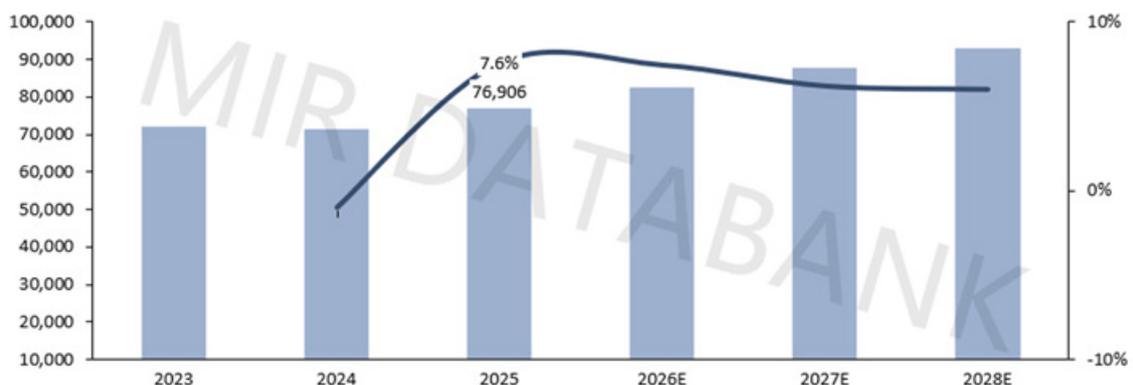
◆ 2025 年中国工作機械市場

第1部：2025年の工作機械市場は全体的に回復基調、Q4の成長率が最も高い

MIR DATABANKの最新統計によると、2025年第4四半期の中国金属切削工作機械市場規模は227億元を超えました。通年では769億元を超え、前年比7.6%増となりました。

023年～2028年 中国金属切削工作機械の全体市場規模および成長予測

(単位：百万人民元)



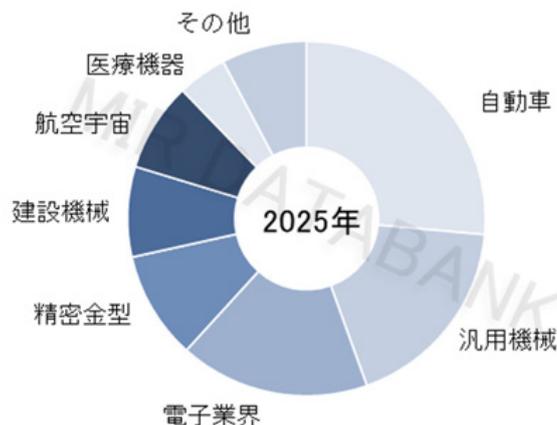
データ出典：MIR DATABANK

内需は、政策による刺激や新興産業の成長に支えられ、回復の兆しが見られます。一方では、従来型製造業における設備更新の堅調な需要の顕在化が、業界の基盤的な支えとなっています。これに加え、新エネルギー車、AI液冷、人型ロボットなどの分野の成長が需要を押し上げ、第4四半期は年間で前四半期比の成長率が最も高い四半期となりました。年間を通して見ると、製造業は高付加価値化およびスマート化への転換を加速させており、スマート製造関連政策の継続的な強化により、先端設備への投資も回復しています。また、最終需要産業における設備更新サイクルが始動したことで、工作機械市場の需要が回復し、市場全体の規模は再び成長軌道に入りました。

第2部：川下業界の牽引による構造的成長、5軸工作機械とドリルタップセンタが好調

産業構造の観点から見ると、自動車、一般機械、電子機器業界が依然として工作機械の主要な応用分野であり、合計で全体の61%超を占める市場の基盤となっています。成長率の面では、自動車産業と航空宇宙産業が2025年における需要牽引の主軸であり、それぞれ12%超、10%超の成長率を記録して市場全体の拡大を大きく支えました。

2025年 産業別市場規模の構成比



データ出典: MIR DATABANK

自動車産業：自動車産業は工作機械の用途別シェアが最大（26%）であり、2025年第4四半期において最も成長率の高い分野となりました。新エネルギー車と従来型ガソリン車の双方の需要が、国の補助金政策により押し上げられています。一方では、新エネルギー車の技術革新が急速に進展し、設備更新のペースが加速しています。他方では、従来の自動車メーカーによるハイブリッド車への転換に伴う生産ライン改造需要が発生しており、これら二つの要因が相まって安定した受注源を形成しています。

電子機器産業：政府の消費刺激策と、消費構造が電子製品へシフトしていることを背景に、2025年第4四半期も継続して成長を維持しました。セグメント別に見ると、国産メーカーの優位性が一層顕著となっており、特にコンシューマーエレクトロニクス金型等の加工分野において、外資系製品から国産品への代替が着実に進行しています。

航空宇宙：航空機における複合材料やチタン合金の使用比率向上に伴い、工作機械に対する高精度かつ複合的な加工能力への要求が大きく高まっており、5軸工作機械が中核機種となっています。現在、ミドルレンジの部品加工シーンにおいては国産設備の代替が加速していますが、ハイエンド分野では依

然として外資系メーカーの技術的優位性に依存しています。同時に、中国の商業宇宙産業が急速に台頭しており、衛星製造、ロケット打ち上げ、衛星応用、宇宙旅行といったプロジェクトの進展が、産業を爆発的に成長させています。「第15次五カ年計画」期間中、政策体系の整備と産業エコシステムの成熟が進むことで、中国の商業宇宙産業は、ロケットの高頻度打ち上げ能力と衛星の量産能力の両面で飛躍的な進歩を遂げることが見込まれており、国産の高精度5軸工作機械に大きな市場機会をもたらすと期待されています。

その他領域：AI液冷産業に代表される新規需要が急成長しており、主要部品である液冷コネクタがスライズ型自動旋盤の市場需要を直接的に押し上げています。津上、スター精密、シチズンなどのメーカーが直接的な恩恵を受けています。

全体として、産業需要は「伝統的な主要産業のシェアが安定しつつ、新興のハイエンド領域が高成長を示す」という構造的特徴を示しています。

業界全体の競争激化、収益環境の悪化を背景に、市場成長の原動力は「全面的な回復」から「構造的な牽引」へと移行しつつあり、機種ごとの業績でも明確な差が現れています。

機種別の動向を見ると、2025年は5軸マシニングセンタやドリルタップセンタが顕著な伸びを示しており、いずれも市場の全体成長率を上回りました。

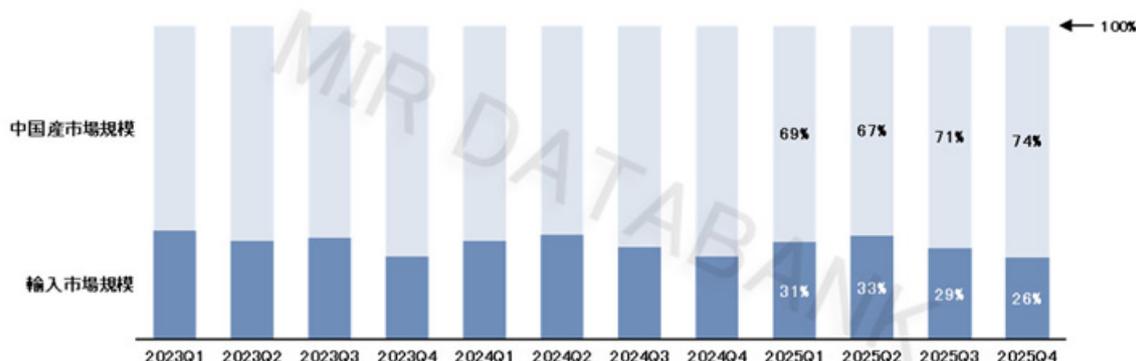
2025年中国金属切削工作機械の機種別成長状況(販売台数ベース)

機種	2024年 前年比成長率	2025年 前年比成長率
横型旋盤	1.0%	7.8%
立形マシニングセンタ	0.5%	6.3%
タッピングセンタ	10.7%	11.6%
門型マシニングセンタ	2.6%	7.5%
横型マシニングセンタ	-5.1%	5.6%
立形旋盤	-3.0%	7.3%
その他	-1.4%	20.5%
TOTAL	2.0%	8.0%

データ出典: MIR DATABANK

第3部：国産代替の加速と市場競争構造の二極化

中国金属切削工作機械における国産・輸入別市場規模
および成長分析(2023年第1四半期～2025年第4四半期)



データ出典: MIR DATABANK

2025年第4四半期、国産工作機械のシェアは上昇基調を維持しており、市場構造はより明確な競争階層を示すようになりました。

一方では、国産設備と輸入設備の競争領域はさらに明確になっています。国産設備は、中低価格帯の汎用機種および中価格帯の精密機種の分野で圧倒的優位性を確立しており、特にドリルタップセンタ、3軸立型マシニングセンタ、横型旋盤などの分野で顕著です。産業別に見ると、国産設備は消費牽引型の産業において深く浸透しており、新エネルギー車がその典型的な代表例です。例えば、HISION（海天精工）の門型マシニングセンタや、NEWAY（紐威数控）の横形マシニングセンタは、一体型ダイカストの後処理やバッテリーケースの加工現場において、既に大規模に導入されています。

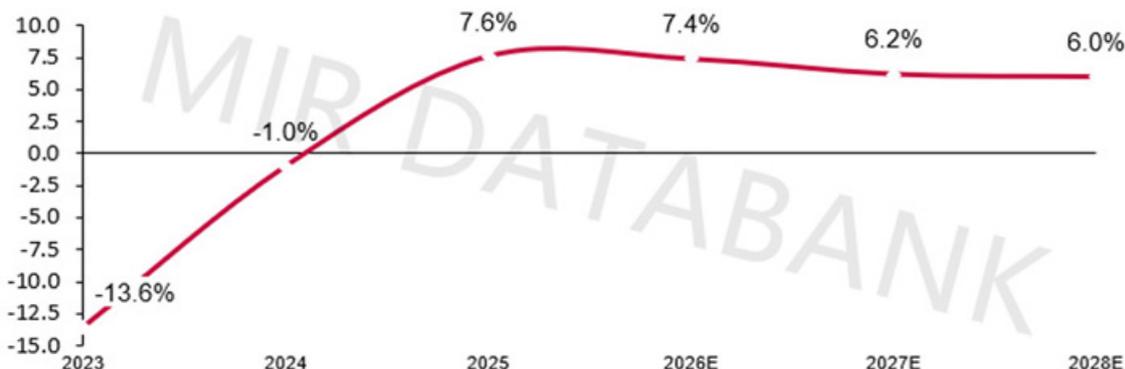
他方で、国産代替の動きは顕著に加速しており、トップメーカーへの市場集中度が高まる一方で、海外ブランドのシェアは一段と縮小しています。技術面では、国内メーカーによるコア技術やハイエンド機種でのブレイクスルーを進めており、国産代替の高度化に向けた基盤が整いつつあります。ハイエンド機種の領域では、5軸工作機械が国内メーカーの突破口としても重要な領域となっており、KEDE（科徳数控）、HIMILE（豪邁機床）、TOPNC（拓璞）といった企業が研究開発および市場投入を継続的に強化しています。同時に、華東や華南エリアにおいても技術力を備えた5軸設備サプライヤーが台頭しており、産業エコシステムが段階的に整備されつつあります。

通年で見ると、需要の段階的な回復と国産代替の加速という二重の追い風を受け、業界規模は回復的な成長を遂げたものの、市場競争の激しさは依然として高い状況です。メーカーの動向としては、一部の外資系ブランドは市場シェアを維持するために、中価格帯機種で値引きを強化しており、価格体系は下落傾向が続いています。同時に内資系メーカー間でも競争が激化し、価格競争が繰り広げられています。その結果、業界全体の規模が回復基調にある中、一部の内外資系企業では利益水準が低下しており、業界は「市場規模の回復と利益圧迫が共存する」という調整局面を迎えています。

第4部：今後の市場機会に関する分析

全体として、市場需要等の要因を受け、2025年の中国における金属切削工作機械市場は回復傾向を示しています。2026年も市場は引き続き成長基調を維持する見通しですが、業界の成長率は鈍化する可能性があります。

2023-2028年 中国金属切削工作機械市場の成長率予測



データ出典: MIR DATABANK

市場機会の観点からは、人型ロボット、液冷、3C電子の3分野が注目されます。

① 人型ロボット産業

人型ロボット産業は、現在の市場の注目分野です。AI技術の発展により参入障壁は大幅に低下しており、現在中国国内では数百の企業がさまざまな技術的アプローチを模索しています。最終的にどの技術方式が主流になるとしても、将来的には金属加工業界に多くの新規需要をもたらし、精密工作機械メーカーにとって重要な成長機会になると見込まれます。

② 液冷産業

液冷産業は、今後数年間で急速な発展期を迎えると予測されます。現在、AI液冷分野には主に欧州系と台湾系の二大サプライチェーンが存在し、両者では液冷コネクタの加工精度に対する要求水準が大きく異なります。欧米系サプライチェーンはより高い精度を要求し、それに伴い最終製品である部品価格には最大で十倍もの価格差が生じる場合もあります。こうした製品需要の差異は、サプライヤーの設備選定にも直接的な影響を及ぼしています。そのため、将来的にはAI液冷市場では、スイス型自動旋盤メーカー間の差別化競争がより一層鮮明になると見込まれます。

③ 3C 電子機器産業

2026年のコンシューマーエレクトロニクス業界は、2025年の活況を維持する見通しです。工作機械業界の需要動向は、個人消費構造の変化と密接に関連しています。経済全体が下押し圧力を受ける中で、コンシューマーエレクトロニクス製品は長期にわたり根強い需要を維持しています。さらに、2025年の国家補助金政策による刺激が、ドリルタップセンタメーカーに顕著な業績の恩恵をもたらしました。2026年には新たな国家補助金政策が開始される見込みであり、3C電子機器業界に再度の需要刺激をもたらし、関連する工作機械メーカーの業績成長を後押しすると予測されます。

CREATE CENTURY(創世紀)やHARVEST STAR(潤星)に代表される国産ドリルタップセンタメーカーは、2025年に業績を急速に伸長させており、その製品は適用分野の広さと加工精度の高さにおいて、サプライチェーン全体から広く評価を得ています。これを基盤として、国内メーカーはより高効率な機種を開発を継続しており、コンシューマーエレクトロニクス関連の筐体やフレーム部品の加工効率をさらに向上させ、産業成長の新たな原動力となる可能性があります。

製品技術の発展トレンドとしては、5軸マシニングセンタやスイス型自動旋盤が重要な市場機会として注目されます。

① 5軸マシニングセンタ

2025年5軸マシニングセンタの販売台数は8,000台を超え、前年比で約14%増となっています。5軸工作機械は、複雑な曲面の加工およびワンチャッキングでの多面加工において顕著な優位性を有しており、航空宇宙などの精密加工分野では不可欠な設備となっています。また近年では国産代替の重点機種にもなっています。国内メーカーはアプリケーション主導の開発を進め、多様なサイズや機能を備えた5軸マシニングセンタを次々と市場投入することで、外資系ブランドの代替を徐々に進めています。現在の中国5軸市場は、多くの企業が競争する活発な状況となっています。

② スイス型自動旋盤

スイス型自動旋盤は、多種多様な人型ロボットの技術ルートに適合する設備です。現在、人型ロボットの最終設計は完全には確定していませんが、共通する設計思想として、波動歯車装置(ハーモニック減速機)や遊星ローラーねじなどの精密部品が組み込まれています。これらの部品の加工需要は、スイス型自動旋盤メーカーにとって重要な業績成長の柱となる見込みです。

同時に、AI、コンシューマーエレクトロニクス、車載電子機器等の産業の発展により、世界的な半導体需要の着実な拡大を後押ししており、関連する検査装置や部品加工市場も拡大しています。精密スイス型自動旋盤は半導体プローブ加工において代替困難な役割を担っていますが、現状では当該分野は外資メーカー、特に日本ブランドが市場を主導しており、国産代替の余地が大きいとされています。

また、2025年のスイス型自動旋盤市場は、AI液冷業界における液冷コネクタの加工需要増大の恩恵を十分に受けました。今回のAIブームは今後2~3年続くと見込まれており、スイス型自動旋盤市場の持続的な成長をもたらすものと予測されます。

総括すると、工作機械業界は、構造的な二極化がより鮮明になる発展段階に入ると考えられます。一方では、国産代替は中長期的なメインテーマであり続ける見込みで、特に5軸マシニングセンタ、ハイエンド複合加工機、核心機能部品の分野において、技術的な成熟度の向上と実用検証の進展により、国産設備がハイエンド市場へ加速的に浸透することが見込まれます。

他方では、業界競争の軸は単なる価格競争から、技術力、納期対応力、総合ソリューション能力を競う段階へと徐々に移行しており、確固たる技術力と規模の優位性を備えた大手メーカーへの市場シェアの集中がさらに進むと考えられます。

同時に、川下市場である新エネルギー車、人型ロボット、航空宇宙、ハイエンド装置製造などの新たな需要が継続的に顕在化することで、工作機械業界に新たな成長の原動力がもたらされ、産業サイクルは「需要の回復」から「質の高度化」の段階へと移行する見通しです。

(MIR ニュースリリース 2026年3月13日)

◆イタリア製造業、ハイパー減価償却法 地域要件撤廃

イタリア新ハイパー減価償却法案について、今後の立法措置により、2025年12月30日の法律第199号(2026年予算法)が改正され、欧州または欧州経済領域に加盟する資本財の購入に限定されていた以前の制限を撤廃する。この変更により、原産国に関係なく資本財への投資も対象範囲が拡大される。

現時点でこれらの規定の正式な承認日はまだ不明である。

(UCIMUからの書状 2026年3月13日)

◆ハリー・モーザー氏、米国製造業の未来について議会で演説

リショアリングを加速するための青写真

今年がアメリカ独立宣言調印250周年にあたる。この50周年を記念し、2025年11月20日に下院中小企業委員会で提出した議会証言「メイド・イン・ザ・USA：メインストリートが国内製造業を活性化させる方法」についてご紹介する。この証言では、米国の製造業の現状を報告し、リショアリングを加速するための青写真を提示した。

議会へのメッセージ

議会へのメッセージは簡潔である。リショアリングは既に効果を上げており、中小企業に多大な利益をもたらし、適切な政策的視点に立てば、2040年までに米国経済を変革することができる。

リショアリングは理論の域を超えた

2010年にリショアリング・イニシアチブを設立した当時、リショアリングは現実というより理論の域を出なかった。この年、企業は国内回帰と外国直接投資(FDI)による製造業の雇用を約11,000件発表した。

現在、年間増加率は約240,000件に増加しており、年平均成長率は約25%である。2025年には若干の鈍化が見込まれるものの、最新の2025年版「国内回帰イニシアチブ報告書プレビュー」では、発表された雇用数は約245,000件と、2024年の好調な結果からわずかに減少している。このわずかな減少は、依然として根底にあるトレンドの強さを裏付けている(図1参照)。最終結果はまもなく発表される。

2025 Reshoring and FDI Job Announcements (UPDATE)

(Includes full commitment cases only)

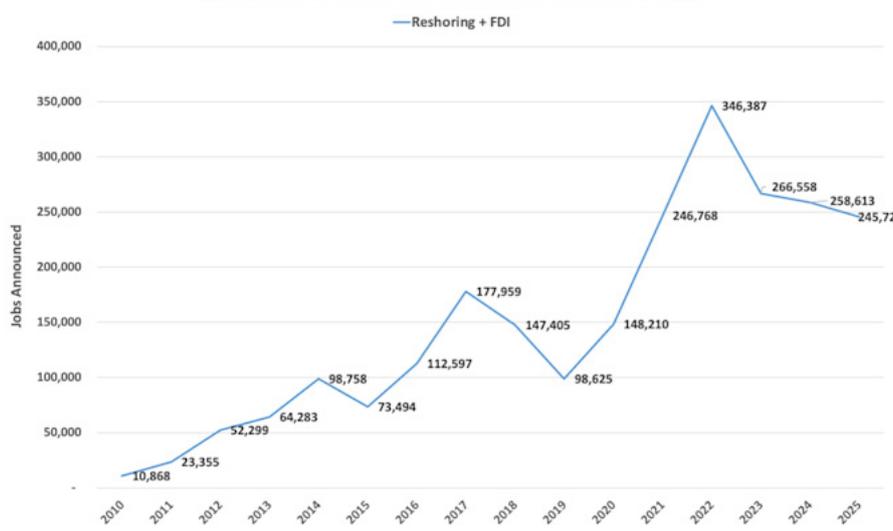


Figure 1: Reshoring Initiative Data

ここ数十年、産業政策は、より積極的でテクノロジー主導型の米国製造業の育成へと移行し始めており、同時に熟練労働力育成イニシアチブも台頭している。この変革は、米国サプライチェーンの国内回帰という製造業の復活を後押ししている。

より協調的な産業政策によって、リショアリング率は倍増し、2040年までに米国の製造業の生産高は50%増加し、1.2兆ドルの財貿易赤字を解消できる可能性がある。

米国の中小企業

企業がリショアリングできるのは、これまで輸入していたものだけである。リショアリングの決定権を持つのは大企業とOEMです。中小企業はリショアリングの業務の多くを担い、大口顧客が必要とする部品、ツール、自動化システムを生産している。中小企業のリショアリングを加速させるには、顧客に組立と部品調達を国内で行うよう説得する必要がある。

中小企業の相乗効果

好例が、ケンタッキー州ルイビルに本社を置くハイアール傘下のGEアプライアンスである。GEアプライアンスは、中国とメキシコから生産拠点を米国内に戻すことで、米国での製造業の拡大に65億ドルの追加投資を行った。その結果、全米50州に約6,500社のサプライヤー（ほとんどが中小企業）からなるネットワークが構築された。GEアプライアンスは、これらの国内サプライヤーから毎年約46億ドル相当の材料、部品、サービスを購入している。

まさにこれこそが、リショアリングの本来あるべき姿です。大企業の一つの決定が、全国で何千もの中小企業の機会を生み出す。

オフショアリングの根本原因

Plante Moranと共同で実施した調査と2025年リショアリング調査によると、製造コスト／価格がオフショアリングの圧倒的な原因であり、リショアリングの障壁となっている。米国のコストは、他のほとんどの先進国と比較して平均10~20%高く、中国と比較して50%高くなっている。

この差が、大企業に部品や完成品を海外から調達させる原動力となっている。ジョー・バイデン大統領の優遇措置とドナルド・トランプ大統領の関税は、本質的にコストの公平化を図る取り組みである。国際通貨基金(IMF)によると、このコスト差は主に、米ドルが他の先進国と比較して約20%、新興市場国と比較して100%過大評価されていることに起因している。図2は、190のケースにおける中国のFOB価格と米国の価格を比較したものである。中国の価格は平均して米国の価格の約60%である。

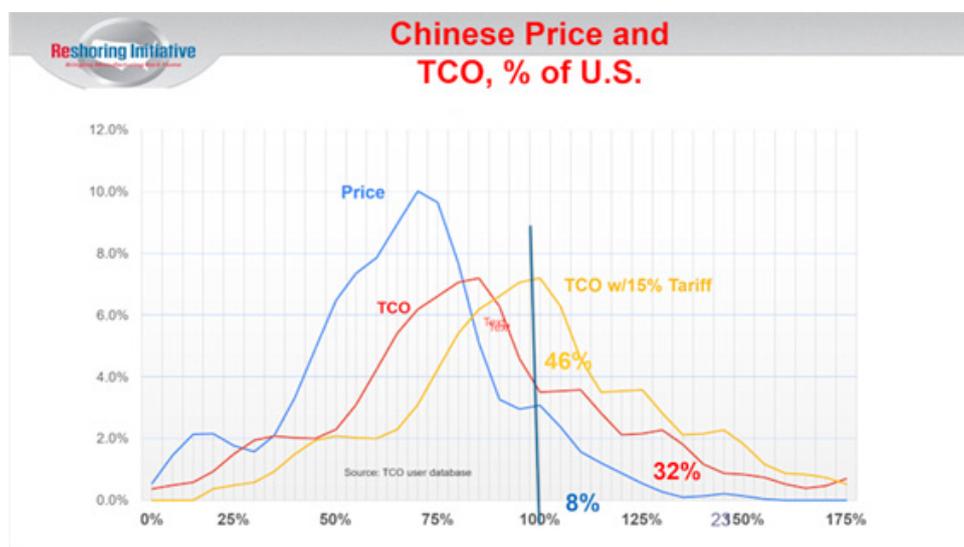


Figure 2: Reshoring Initiative Data

熟練労働力：リショアリング成功の礎

2025年リショアリング調査の結果によると、リショアリングを検討している企業にとって、高度なスキルを持つ労働力こそが最大の成功要因であることが明らかになった。一方で、熟練労働力の不足は根強い阻害要因となっている。企業にリショアリングの決定に最も影響を与える政策措置を尋ねたところ、熟練労働力は、減税、規制の緩和、さらには関税よりもはるかに上位にランクされた。製造業者は、大規模なリショアリングには、現在よりも多くの人材、そしてより高度な訓練を受けた人材が必要であることを理解している。

米国の州政府および地方自治体がすべきこと

労働省(DOL)は、「すべての人に大学を」ではなく、「すべての人に良いキャリアを」を促進すべきである。教育省のグラフは、見習い制度の卒業生の平均収入が学位取得者と同等であることを示しており、18歳で大学ローンを組まずに就職することのメリットを数値化している。

教育省は、需要の低い専攻の学生への大学ローンを減らし、エンジニア向けのローンを増やし、見習い期間終了後も労働者が就業を続ける場合に雇用主が返済する「見習いローン」を提供すべきだ。州政府と地方自治体は、高校卒業時のキャリア支援制度を再導入すべきである。

産業政策に関する提言

米国は、熟練労働者とエンジニアの質と量を向上させ、コストの公平性を確保する必要がある。第一の提言は、第116回議会でタミー・ボールドウィン上院議員(ウィスコンシン州、民主党)とジョシュ・ホーリー上院議員(ミズーリ州、共和党)が提出した超党派の「雇用と繁栄のための競争力のあるドル法案」の「市場アクセス料」条項を通じて、米ドルを約20%引き下げることである。これにより、オフショアリングの根本原因を克服できる。

第二の提言は、付加価値税(VAT)を導入し、その収益の一部を低所得層の保護に充当することである。第三の提言は関税である。もし関税が採用されるなら、中国を除くすべての商品に対し、世界中から輸入されるすべての商品に、永続的に単一税率を適用することで、関税を簡素化・安定化することを提言する。

通貨は商品とサービスの輸出入に影響を与えるため、関税よりも通貨戦略を優先する。関税は商品の輸入にのみ利益をもたらし、他のすべてのカテゴリーに悪影響を及ぼす可能性がある。

大統領とすべての議会議員は、企業関係者に対し、調達と立地の決定に際して、リショアリング・イニシアチブの総所有コスト(TCO)試算ツールの利用を呼びかけるべきだ。100%遵守すれば、業界は政府に負担をかけずに100万人の雇用を創出できる。さらに、製造コストの上昇につながる法人税の引き上げや医療費の削減は行わないよう勧告する。

中小企業ができること

中小企業は、従業員の採用、研修、スキルアップを図り、可能な限り自動化を推進すべきである。輸入品と競合させる際や、顧客にリショアリングを勧める際には、TCOを考慮すべきだ。実際にそうしている企業はわずか30%である。リショアリングのメリットを積極的にアピールすべきである。

リショアリングが国家レベルで重要な理由

雇用以外にも、リショアリングはほぼすべての主要な国家課題に対処する。所得格差の縮小、財貿易赤字(現在年間約1.2兆ドル)の縮小、防衛態勢の強化、そして長期的な経済競争力の向上につながる。

注: Harry Moser氏は、リショアリング・イニシアチブ創設者

(AMT ONLINE 2026年3月6日付)

◆海外業界動向：中国が自動車および工作機械生産量を記録

中国自動車工業協会(CAAM)が2026年初頭に発表したデータによると、2025年の中国の自動車生産と販売は過去最高を記録し、それぞれ3,453万台と3,440万台に達し、前年同期比で10.4%と9.4%の増加となった。生産量は3年連続で3,000万台を超えている。

電気自動車の生産と販売も2025年に過去最高を記録し、それぞれ1,663万台と1,649万台に達し、前年比で29%と28.2%の増加となった。EVは新車販売総数の47.9%を占めた。

2026年3月初旬、中国工作機械・工具工業会(CMTBA)は、中国の工作機械産業の2025年の最新の輸出入統計を発表した。主なポイントは以下の通りである：

- 中国の工作機械産業の輸出入総額は334億8千万ドルで、前年比5%増加した。輸入は103億ドルに達し、前年比1.4%増、輸出は引き続き増加し、231億8千万ドルで前年比6.7%増加した。輸入の上位5か国は、日本(34億9,000万ドル)、ドイツ(24.2億ドル)、台湾(11.3億ドル)、韓国(5億6,000万ドル)、スイス(4億3,000万ドル)。
- 以下は、工作機械、工具、金属切削機械の輸入総額47.7億ドル、前年比1.04%減少の内訳である。
 - 輸入された上位5台の工作機械は、マシニングセンタ(18.3億ドル)、特殊加工機械(10.7億ドル)、研削盤(6億8,000万ドル)、歯車発生機(5億5,000万ドル)、旋盤機(4億ドル)であった
 - 主要部品、13億8,000万ドル、1.43%減
 - 切削工具、12億7千万ドル、3.25%増
 - CNC制御システム、10億5千万ドル、16.85%急騰
 - 研磨材、7億6,000万ドル、5.56%上昇
 - 金属成形機械、6億1,000万ドル、7.58%縮小
 - 測定・検査装置、1億9,000万ドル、前年同年同月比

以下に、最近発表されたいくつかのプロジェクトや投資ニュースを紹介する。

- 2024年6月に策定された計画のもと、宜興威英精密科学技術有限公司は江蘇省での研究開発およびEV部品生産の2段階にわたり1億4,000万ドルを投資している。
- 湖州病視科技有限公司は、浙江省に自動車用ランプ生産施設を建設するために904万ドルを投資する。同社は生産および組立ラインで年間100万本のEVランプ生産を目指している。
- 洋吉CNC工作機械(江西)は、中高級から高級CNC工作機械向けの先進製造施設建設のために2億7,900万ドルを投資する。購入計画には計測設備、マシニングセンタ、研削盤、ターニングセンタ、板金成形機械が含まれる。同社は年間500セットの生産を目指している。
- 浙江新京HVACはEV向けの新しい熱管理システムプロジェクトに1億6,400万ドルを投資する。プロジェクトは2段階に分けられ、年間生産能力は300万台の計画。
- 世界第3位の建設機械サプライヤーである中国の三一グループは、江蘇省で1億5,500万ドルを投じてショベルカーおよび関連部品の生産にあたる。生産機器の購入には、産業用ロボット、レーザー切断機、プレスブレーキ、マシニングセンタ、測定装置が含まれます。同社は年間3万台のショベルカーを生産する計画。

(AMT ONLINE 2026年3月10日付)

◆海外業界動向：東南アジア

2025年総括：困難な年における強靱な成長

地域全体の経済パフォーマンス

東南アジアは2026年に強い立場で臨んだ。動揺する世界情勢にもかかわらず、東南アジア諸国連合(ASEAN)の経済は2025年に堅実な成長を遂げており、その数字は説得力のある物語を語っている。

- **GDP成長率**：アジア開発銀行は2025年の地域成長率を4.3~4.5%と見積もり、当初の予測をやや下回るものの、逆風を考えれば強靱である。堅調な輸出、国内需要の上昇、製造業やサービスへの投資の加速が結果に寄与した。
- **貿易と製造業**：関税調整や世界的な貿易の不確実性が製造業のPMI指標に摩擦を生んだが、地域の輸出エンジンは持ちこたえました。電子機器、機械、自動車部品はすべて、世界環境が複雑化する中でも安定していた。
- **外国直接投資**：FDIは依然として明るい光であった。ハイテク製造業(半導体、データセンター)、エネルギー転換セクター、自動車サプライチェーンなどが多大な資本を引き寄せた。ベトナム、タイ、マレーシアは、生産能力の多様化を目指すグローバル企業にとって注目される目的地の一つであった。
- **リスク要因**：この地域には課題も少なかったわけではない。米中貿易緊張、地政学的な変動、そして世界的な金融引き締めが、年間を通じて信頼感に重くのしかかった。これらのダイナミクスは2026年に向けても依然として重要である。

2025年製造業および工作機械市場の変化

サプライチェーンの変化

中国プラスワン戦略は2025年に加速しました。グローバル企業は中国からASEANへの生産能力移転を続け、電子機器、精密部品、産業機械分野で持続的な需要の波を生み出しました。製造業者や工作機械サプライヤーにとって、この構造的変化はプロジェクトパイプラインに直接反映されました。

セクターのハイライト

- **マレーシアの半導体クラスター**は、国内外の新規ツール投資に支えられ、実質的な生産能力拡大が見られた。
- **タイの自動車産業**は、電気自動車(EV)部品の需要増加に支えられ、慎重ながらも有望な回復を見せた。
- **ベトナム**は、自動化と高度な加工能力への継続的な投資により、電子機器および精密製造の主要な輸出拠点としての地位を確立した。

投資動向

戦略的資本は、電力ソリューション、産業自動化、高精度製造施設など、地域全体の製造インフラのアップグレードに流れ込んだ。そのパターンは明白だ。投資家は東南アジアに工場を建設しているだけでなく、彼らは次世代の彼らを育てている。

2026年見通し：本当の機会、本当のリスク

成長見通し

2026年のファンダメンタルズは依然として良好だ。主要な多国間予測の多くは、深刻な外部ショックがなければASEAN圏のGDP拡大が4%半ばの範囲で続くと予測している。いくつかの追い風がこの地域に有利に働いている：

- **国内需要**：主要市場でのインフレ低下と政策支援は、特に輸出志向型経済で金融緩和が続く場合、家計支出と企業投資を強化すると予想されている。
- **貿易と外国直接投資(FDI)**：サプライチェーンの多様化は輸出成長を引き続き牽引している。東南アジアは製造業、AIインフラ、グリーンテクノロジー分野で依然として外国資本の獲得競争が非常に激しいままである。

注目すべき主要ドライバー

1. 輸出レジリエンス

輸出は依然として成長の基盤である。電子機器、自動車部品、電化技術はいずれも2026年まで勢いを維持し、製造サプライチェーン全体で強い需要を支える見込み。

2. 先端製造への投資

東南アジアはもはや単なるコスト競争力のある製造拠点ではない。むしろ、高付加価値生産の拠点として積極的に再定位している。半導体、エネルギー貯蔵システム、産業用AIの導入が、精密工作機械や先進製造システムの新たな需要を牽引している。

3. 政策と貿易のアーキテクチャ

ASEANとEUの関係強化や新たな米国貿易関係の展望は、地域の輸出国の市場アクセスを大きく拡大する可能性がある。リスクも現実的。関税の引き上げや大規模な地政学的亀裂は、見通しを急速に曇らせる可能性がある。

4. 国内イノベーションと自動化

地域政府は自動化、デジタルスキル開発、産業イノベーションを長期的な政策の基盤として支援している。これは機械需要にとって構造的なプラスであり、勢いを増している。

監視すべきリスク

- **世界貿易の不確実性**：関税の再激化や米中政策の大幅な転換は、東南アジアが依存する輸出の勢いを妨げる可能性がある。
- **政治的変動性**：一部のASEAN諸国における国内政策の不確実性は投資リスクを伴う。地域以外でも、中東での紛争の激化はほぼ確実に輸送物流、エネルギーコスト、世界的な需要に影響を及ぼす。

FDI 発表：マレーシア

1. 半導体および先進パッケージング

対象分野：高精度CNC加工、マイクロマシニング、クリーンルーム対応機器。

Company	Headquarters	Announced	Investment	Sector/Note
X-FAB Sarawak	Belgium	Sept. 2025 (Expansion)	\$600M	Expansion of analog/mixed-signal semiconductor fab in Sarawak.
Chipbond Technology	Taiwan	Feb. 2026 (Opening)	\$200M	Advanced semiconductor packaging and testing facility.
CHIPX	Ireland	Dec. 2025	\$ TBD High Value	High-value semiconductor design and manufacturing project.
Exis Tech (CCTECH)	China	Dec. 2025	\$26M	Precision electronics manufacturing and component production.

2. 自動車および新エネルギー車両

対象分野：金属プレス、ダイカスト、ロボット組立ライン統合。

Company	Headquarters	Announced	Investment	Sector/Note
PROTON	Malaysia	Sept. 2025	\$19M	Expansion of domestic automotive manufacturing capabilities.
EP Manufacturing (EPMB)	Malaysia	Late 2025	\$26M	Automotive parts and components manufacturing expansion.
Rianlon Corp.	China	Jan. 2026	\$326M	Polymer additives and specialty chemicals for NEV applications.

FDI 発表：タイ

タイは2025年に外国投資で歴史的な年を記録した。最初の9か月だけで、FDI申請件数は**過去最高の422億ドル**に達し、**前年比で驚異的な94%の増加**となった。この数字は、グローバル企業がタイを製造拠点としていかに積極的に進めているかを示している。特筆すべきは、投資委員会が2025年6月をもって「一般金属切削」に対するインセンティブを公式に廃止し、高付加価値のスマート製造および自動化生産ラインへと明確に転換したことである。

1. 先進製造とスマートエレクトロニクス

対象分野：高精度CNC加工、マイクロマシニング、自動化部品生産。

Company	Headquarters	Announced	Investment	Sector/Note
ANCA Group	Australia	Nov. 2025	\$10M	Expansion of CNC machine production and automation in Rayong.
Sunwoda Energy	China	Oct. 2025	\$25M	High-density battery cell manufacturing; requires advanced metal forming.
Peng Shen Tech	Singapore	Oct. 2025	\$447M	High-density interconnect and smart electronics manufacturing.
Various (SMEs)	Hong Kong	Jan. 2026	\$421M	Collective investment in smart electronics and metal parts manufacturing.

2. 自動車および次世代車両

対象分野：金属プレス、ダイカスト、EV部品の専門工具。

Company	Headquarters	Announced	Investment	Sector/Note
Automotive Cluster	Various	Sept. 2025	\$2.0B	Combined investment from 18 clean energy automakers and immediate supply chains.
Japan Tier 1 Suppliers	Japan	Jan. 2026	\$1.4B	Automotive parts design and manufacturing applications.
EV Part Manufacturers	China	Dec. 2025	\$577M	EV motor and battery pack components.

外国直接投資の発表：ベトナム

ベトナムの製造業は絶好調だ。2025年9月以降、中国プラスワン戦略と高付添価値産業への全国的な推進により、同国は大量の外国資本の流入を受け入れている。2025年の総FDIは384.2億ドルに達し、加工・製造が新規資本の56.5%を占めており、グローバル企業がベトナムの産業将来をどう捉えるかを明確に示している。

重要な政策進展として、2025年9月に施行された法令205/2025は、先進機械、CNCシステム、産業用ロボットに投資する国内企業に対し、自動車および電子部品の現地化率向上を目的とした最大50%の資金提供を提供している。市場への影響は重要であり、今後のレポートで詳しく検討される予定。

1. ハイテクおよび半導体エコシステム

対象分野：精密マイクロマシニング、光学検査、リアルタイム3Dデジタルツイン。

Company	Headquarters	Announced	Investment	Sector/Note
Amkor Technology	USA	Oct. 2025	\$1.1B	Major expansion of advanced semiconductor packaging facility in Bac Ninh.
Hana Micron	South Korea	Nov. 2025	\$930M	Expansion through 2026 for high-end chip packaging and testing equipment.
Foxconn (Shunsin)	Taiwan	Nov. 2025	\$80M	Advanced semiconductor packaging.
Nvidia (R&D Center)	USA	Dec. 2025	\$200M	AI research and data center development in Hanoi.

2. 自動車および次世代車両

対象分野：金属プレス、バッテリーケース成形、自動組立。

Company	Headquarters	Announced	Investment	Sector/Note
BYD Vietnam	China	Jan. 2026	\$130M	New EV assembly and parts plant; requires high-volume stamping and tooling.
Posco International	South Korea	Sept. 2025	\$300M	Permanent magnet and EV motor core plant; requires specialized metal forming.
LG Energy Solution	South Korea	Sept. 2025	\$1B	Announced but not confirmed. Battery cell and e-motorbike manufacturing facility.

3. インフラと重工業

対象分野：構造用鋼製造、重負荷成形、油圧部品加工。

Company	Headquarters	Announced	Investment	Sector/Note
Industrial Parks (HP)	Various	Oct. 2025	\$350M	Infrastructure for four new green industrial parks in Hai Phong for high-tech use.
Mechanical Projects	Vietnam	Jan. 2026	\$258M	Collective investment in 52 mechanical engineering projects in Ho Chi Minh City.

工作機械サプライヤー向け戦略インテリジェンス

CNCおよび金型需要が急増している：精密CNCおよび金属加工機器の輸入額は2025年に90億ドルに達し、推定成長率は23%に達しました。タイは東南アジア最大の市場であり、輸入額は120億ドルを超えているが、ベトナムの成長率はタイのほぼ3倍に達し、地域で最もダイナミックな機会となっている。

半導体「シリコンベルト」成形:投資は北部回廊(バックニン、タイグエン、バックジャン)に集中しており、ここは急速に電子機器および半導体物流の地域拠点となっている。

コンプライアンスのシフトが新たな需要を生み出す:2026年1月にEUの炭素境界調整メカニズムとベトナム独自の排出権取引システムが導入されたことで、現場でのエネルギー使用を追跡できる高効率・低炭素工作機械やソフトウェアへの需要が急増している。これは将来志向のサプライヤーが対応できる新たな市場ニーズである。

FDI 発表:インドネシア

インドネシアは大胆な行動を取っている。世界で4番目に大きな人口、急速に成長する中間層、そしてエネルギー転換に必要な重要な鉱物の豊富な資源を持つこの群島は、自動車、金属、スマート製造、繊維分野で本格的な資本を引き寄せている。

1. 自動車および電気自動車のエコシステム

対象分野:精密部品加工、バッテリーケース成形、自動組立。

Company	Headquarters	Announced	Investment	Sector/Note
BYD	China	Jan. 2026	\$1.3B	EV manufacturing plant, production to begin in 2026.
EV Supply Chain	Various	Nov. 2025	\$1.3B	Combined investment from 15 companies for energy-efficient and EV components.
Toyota Indonesia	Japan	Dec. 2025	\$1.8B	Expansion of local production lines for hybrid and electric vehicle components.

2. 金属、機械、工業機器

対象分野:大規模金属切削、油圧部品加工、重負荷成形。

Company	Headquarters	Announced	Investment	Sector/Note
Textile Midstream	Various	Feb. 2026	\$6B	Government-backed initiative to revive the textile industry with new machinery.
Industrial Clusters	Various	Jan. 2026	\$1.2B	Collective investment in metal fabrication equipment for nickel and coal processing.

3. スマート製造と電子機器

対象分野:マイクロマシニング、半導体ハードウェア、自動材料取り扱い。

Company	Headquarters	Announced	Investment	Sector/Note
Tech Automation Hub	Various	Feb. 2026	\$1.2B	Investment in automation and robotics for national manufacturing centers.
Semiconductor Sector	Various	Jan. 2026	\$500M	Funding for domestic chip design and high-precision component testing.
SME Digital Twin	Germany (Siemens)	Dec. 2025	\$100M	Launch of SME-affordable digital twin systems for local manufacturers.

(AMT ONLINE 2026年3月3日)

◆米国通商政策動向：最新情報 国際貿易裁判所と輸入業者への関税還付

米国国際貿易裁判所が最近下した命令により、国際緊急経済権限法(IEEPA)に基づき課された関税の還付が、広範な輸入業者に対して認められる可能性がある。これは、命令が発令された個々のケースにとどまらない可能性がある。貿易実務家は、この判決が、清算がまだ確定していない貨物に全国的に適用される可能性があるとし唆している。

この命令は、リチャード・イートン氏がアトマス・フィルトレーション・テクノロジーズ社対米国訴訟において下したものであり、これはトランプ大統領がIEEPAに基づき課した関税の還付を求める輸入業者による約2,000件の訴訟の一つである。この判決は、米国税関・国境警備局に対し、IEEPAに基づく関税を適用せずに影響を受ける通関品を清算し、清算済みだがまだ確定していない通関品を再度清算するよう指示している。

全国的な影響の可能性

通商弁護士のマシュー・カリガー氏によると、この命令の論理的根拠は、清算手続きが継続している限り、IEEPA関税が覆された対象となるすべての貨物に救済措置が適用される可能性があることを示唆している。これを広く解釈すれば、多くの輸入業者が個別の請求を提出していなくても、払い戻しを受けられる可能性がある。

この命令は正式にはアトマス・フィルトレーション事件に適用されるが、その法的根拠は、裁判所で係争中のより広範な払い戻し訴訟の解決に影響を与える可能性がある。

管轄権に関する議論

イートン判事は、トランプ対CASA事件から生じる潜在的な制約について言及した。この事件において、最高裁判所は、下級連邦裁判所は一般に、全国の当事者に影響を与える普遍的差止命令を発行すべきではないと判断した。したがって、米国司法省は以前、IEEPA訴訟におけるいかなる救済措置も特定の原告に限定されるべきであると主張していた。

イートン判事は、最高裁判所の判断は1789年司法法(ほとんどの連邦裁判所を管轄するが、国際通商裁判所は管轄しない)に基づいていると説明し、貿易裁判所のこの制限を否定した。国際通商裁判所は、関税および貿易紛争に関する国内の地理的管轄権と排他的権限を規定する1980年関税裁判所法に基づいて運営されている。

還付訴訟の統合

イートン判事はまた、マーク・バーネット判事がIEEPA還付訴訟群全体の責任を彼に委任したと指摘した。この集中的な任命は、他の判事が同じ問題に関して矛盾する判決を下すことがなく、係争中の訴訟全体にわたる統一的な解決を支持することを意味する。

未解決の問題

仮にこの命令が広範に適用されるとしても、いくつかの疑問が残る。この判決は、清算が既に確定している通関手続きを裁判所がどのように扱うかについては触れていない。さらに、この命令は、連邦法が関税の返済に通常義務付けている利息が還付に含まれるかどうかについても言及していない。

払い戻し対象となる貨物の数は依然として不透明である。標準的な手続きでは、米国税関・国境警備局(CBP)による清算は通常、入国後約314日以内に行われる。中国製品に対する最初のIEEPA関税は2025年2月4日に発効し、約385日間続いた。一方、2025年4月5日にほとんどの米国貿易相手国に課されたより広範な関税は約325日間継続した。

この期間に入国した多くの貨物は依然として清算手続きが未完了である可能性があるため、今回の命令は、現在無効化されている関税の対象となっていた輸入品の相当数に影響を与える可能性がある。

(AMTTFからの書状 2026年1月)

◆米国通商政策動向：第122条の詳細について

国際緊急経済権限法(IEEPA)に基づいて課された関税を無効とした最高裁判所のLearning Resources対Trump事件判決を受け、政権当局は1974年通商法第122条を暫定関税の代替法的根拠として特定した。

第122条は、重大な国際収支上の問題により輸入制限が必要となる場合、大統領が関税という形で一時的な輸入追加課税を課す明確な法的権限を規定している。この法律は、大規模な国際収支赤字に対処するため、米ドルの大幅な下落を防ぐため、または世界的な収支不均衡の是正に協力するために必要であれば、大統領が最大150日間、最大15%の従価関税を課すことを認めている。

第301条や第232条などの他の貿易権限とは異なり、第122条は事前の政府機関による調査を必要としない。この法律は、特定の条件が存在する場合に大統領がそのような措置を発令するよう指示しており、金融危機の時期に迅速な行政措置を講じることを可能にしている。

立法背景

議会は、ブレトンウッズ体制の崩壊を受けてリチャード・ニクソン大統領が1971年に課した輸入関税をめぐる法的論争を受けて、1974年に第122条を制定した。議員たちは、大統領が国際決済の混乱に迅速に対応するための明確かつ限定的なメカニズムを提供することを目指した。

権限を制限するため、議会はいくつかの厳格な制限を設けた。

- 関税の上限は15%
- 適用期間は150日間
- 適用範囲は広範かつ概ね均一
- 例外は限定的に定義

この枠組みは、迅速な行政措置の必要性と、確固とした法定のガードレールとのバランスを取ることを目的としていた。

第122条の適用を支持する論拠

支持者は、第122条は、最高裁判所がIEEPA関税プログラムに欠けていると判断したような、議会による明示的な権限を与えていると主張している。この法律は、関税を具体的に認可し、税率と期間の両方に明確な制限を設け、措置を正当化する明確なマクロ経済状況を特定している。

支持派はまた、現在の米国の対外不均衡が同法の発動条件を満たす可能性があると主張している。最近の経済データは、2025年には約1兆2,400億ドルの財貿易赤字、持続的な経常収支赤字、そして大幅にマイナスの国際投資純ポジションを示している。この見解によれば、外国資本流入への継続的な依存は、特に通貨の不安定化を伴う場合、国際収支上の脆弱性を生み出す可能性がある。

支持派はさらに、裁判所が歴史的に大統領の関税措置にかなりの敬意を払ってきたことを指摘する。第122条には明示的な委任と厳格な法定制限が含まれているため、より広範な緊急事態権限よりも司法審査に耐える可能性が高いと彼らは主張している。

第122条アプローチに対する批判

批判派は、第122条は全く異なる国際通貨システムのために設計されたと主張している。彼らは、この法律は変動相場制環境における長期的な貿易赤字ではなく、固定為替レート体制下における危機に対処することを意図したものであると主張している。

反対派はまた、法定の発動条件である「根本的な国際決済問題」は、現在存在しない準備金不足や為替レートの崩壊といった状況を指していると主張する。この条項はこれまで一度も適用されたことがないため、裁判所は法律を狭義に解釈し、単に持続的な貿易赤字ではなく、差し迫った通貨の不安定化の明確な証拠を要求する可能性がある。

さらに、最高裁判所が最近、慎重な法解釈を重視していることから、裁判所は現在の経済状況が法定基準を真に満たしているかどうかを精査する可能性がある。

「解放記念日」関税後の潜在的な適用

第122条が発動された場合、それはおそらく3段階のプロセスを経て施行されるだろう。

国際決済問題が輸入制限を正当化するとの大統領の判断。

最大15%の均一な追加課税を課す大統領布告。

150日間の猶予期間を利用して、貿易譲許交渉を行ったり、他の貿易権限に基づく長期関税を追求すること。

議会が行動を起こさない限り、この権限は150日後に自動的に失効するため、この措置は恒久的な関税プログラムというよりは、主に一時的な橋渡しとして機能することになる。

第122条は、1970年代初頭の金融危機後に創設された、限定的ながらも明確な関税権限の委譲を規定している。支持者は、最高裁判所がIEEPA関税を却下した後の一時的な貿易措置のための法的に正当化可能なメカニズムと見ている。批判者は、この法律の経済的トリガーは時代遅れであり、真の国際決済危機が発生しない限り、司法審査に耐えられない可能性があると主張している。

最終的に、第122条が覆された関税の代替として実現可能かどうかは、裁判所が同法の経済的閾値をどのように解釈するか、そして限定的で一時的な課徴金が法令と憲法の両方の要件を満たすことができるかどうかにかかっている。

(Global USA 2026年3月6日)

◆米国通商政策動向：日米貿易投資枠組み

注：日米貿易協定は引き続き有効だが、その法的根拠と執行メカニズムは、2026年2月20日の最高裁判所によるラーニング・リソース社対トランプ事件の判決を受けて変化した。最高裁判所は、国際緊急経済権限法(IEEPA)に基づく政権の関税賦課権限を否定したが、ワシントンと東京は共に、既存の貿易枠組みを堅持することで合意した。

トランプ政権は、日米貿易投資枠組みに基づく最初のプロジェクトの開始を発表した。これは、米国のエネルギーインフラと重要なサプライチェーンの強化を目的とした、日本が約束した5,500億ドルの投資メカニズムの最初の実施となる。

米国商務省は、大統領が最初の3つのプロジェクトを承認したことを確認した。これらのプロジェクトは、発電、エネルギー輸出インフラ、および先端産業資材に重点を置いた約360億ドルの投資パッケージである。政権は、関税交渉が日本の投資コミットメントの規模を確保するのに役立ったことを強調している。

主要プロジェクト

最大のプロジェクトは、オハイオ州に9.2ギガワットの計画発電容量を持つ天然ガス発電所を建設することである。このプロジェクトには、日本から最大330億ドルの投資が見込まれており、開発はソフトバンクグループの関連会社であるSBエナジーが主導する。

2つ目のプロジェクトは、センチネル・ミッドストリームが運営するテキサス州ガルフリンク深海原油輸出ターミナルへの21億ドルの投資である。商務省によると、このターミナルはフル稼働すれば、年間200億ドルから300億ドルの米国産原油輸出を促進する可能性がある。

3つ目のプロジェクトは、高圧・高温工業材料に特化した6億ドル規模の合成ダイヤモンドグリット製造施設である。商務省は、この施設には、先進的な製造アプリケーションを支援するとしているエレメントシックス社が関与する予定。

日本との連携

日本政府は、このイニシアチブを支持する確認書を同時発行した。外務省は、両政府が戦略的投資イニシアチブに基づく最初の一連のプロジェクトに合意し、迅速な実施を確保するために実施調整を行うと述べた。

経済産業省は、これらのプロジェクトが経済安全保障、相互経済利益、そして長期的な成長の促進という本イニシアチブの目的に合致していることを確認した。

実施プロセス

今回の発表は、一般公開に先立ち、最初の一連のプロジェクトを確定するために、1月と2月に複数回にわたり二国間協議委員会が開催されたことを受けてのものである。これらの協議には、国際協力銀行(JBIC)や日本貿易保険(NIPE)などの日本の政府系金融機関が参加し、米国商務省と連携した。

これらの最初の一連のプロジェクトは、日米貿易協定に結びついた、エネルギー安全保障、サプライチェーンのレジリエンス、そして産業協力に重点を置いた、より広範な投資枠組みの実施に向けた最初のステップとなる。

(Global USA 2026年3月5日)

◆米国通商政策動向：IEEPA 最高裁の判決を考慮して、最近発表された予算および経済見通し 2026-2036年

米国議会予算局(CBO)は、2026年2月20日に最高裁判所が国際緊急経済権限法(IEEPA)に基づく関税を無効とした判決の財政影響を評価した。この決定を受けて、政権はこれらの関税を廃止した。

CBOは、IEEPA関税の廃止により、2026年から2036年間に連邦赤字が従来の基準予測と比べて約2.0兆ドル増加すると推定している。この増加は、関税収入の減少による1.6兆ドルの一次赤字増加と、連邦借入の増加に伴う0.4兆ドルの追加債務返済コストで構成されている。

判決前、IEEPAに基づく関税は、2025年1月から2026年2月にかけて徴収された3,000億ドルの関税の約半分を占めていた。これらの撤廃により、米国輸入品の実効関税率(ETR)は約8ポイント引き下げられ、約7%に低下する。この率は2024年に記録された2.5%のETRよりは高いままだが、以前の予測よりは大幅に低減した。

CBOは、IEEPA関税が撤廃される前に約1,500億ドルの関税が徴収されたと推定しているが、輸入業者による還付金や関連する利息請求は不確実であり、赤字予測には含まれていない。

経済的には、これらの関税の廃止は、これまで関税引き上げに伴っていたインフレ上昇圧力、実質投資の減少、GDPの低下、雇用の減少など、これまで関税引き上げに伴ういくつかの悪影響を緩和すると期待されている。しかし、将来的な関税政策の変化の可能性や、この規模の関税調整の過去例が限られているため、予測は依然として不確実である。

また、これらの推計には、1974年貿易法第122条に基づき2026年2月24日に課された関税は含まれていない。これらは今後のCBO分析に取り入れられる予定。

(Global USA 2026年3月6日)

3. 工作機械関連企業動向

◆ DN ソリューションズと HELLER の買収が完了

世界第3位、韓国最大の工作機械メーカーであるDNソリューションズは、ドイツの高級工作機械メーカーとして名高いHELLERの買収を完了した。この取引は、ドイツ、米国、英国を含む複数の管轄区域の規制当局から承認されている。

強化された能力とコミットメント

今回の買収により、DNソリューションズのグローバルな規模、オペレーションの俊敏性、そして高度なデジタルプラットフォームと、HELLERの精密エンジニアリングにおける深い専門知識が融合し、お客様が利用できるソリューションの幅を大幅に拡大し、世界中の要求の厳しい業界におけるイノベーションを推進する。この戦略的統合により、より包括的なサービスネットワークが実現し、欧州や北米などの主要製造地域において、お客様に合わせたソリューションを提供することで、グローバルな影響力と強化された顧客サポートを実現する。

DN SolutionsのCEO、ウォンジョン・キム氏は次のように述べている。「今回の買収は、両社にとって変革の一步となる。両社単独では築くことのできない、進化する業界のニーズに対応し、長期的な安定性と成長を実現する強力な企業を目指している。両社の強みを融合することで、世界の製造業における当社のリーディングポジションを大幅に強化し、お客様にさらに大きな価値を提供できるようになる。」

HELLERのCEO、トルステン・シュミット氏は、「これは両社にとってWin-Winの関係だ。両社は、比類のない幅広いポートフォリオ、専門知識、そしてイノベーション力を活かし、世界中のお客様にサービスを提供していく。この提携により、当社は要求の厳しい業界にとって最高のパートナーとなり、工作機械製造におけるワンストップショップを構築し、あらゆる面でお客様をサポートできるようになる。」

業界変革の推進

製造業は、国内回帰、サプライチェーンのレジリエンス、そして半導体、航空宇宙、その他のデュアルユース産業といった主要産業への多額の設備投資によって、ルネサンス期を迎えている。DN SolutionsによるHELLERの買収は、この変革期における極めて重要な節目であり、業界の成長を捉え、さらに促進することを目指している。

両社は、精度、イノベーション、そして長期的なパートナーシップへの深いコミットメントを共有している。今回の統合計画は、HELLERのブランドアイデンティティを維持しながら、研究開発、製造、市場戦略における相乗効果を最大限に発揮することを目的としている。HELLERは引き続き主要な現地雇用主であり、パートナーであり続けるとともに、DN Solutionsのグローバルなリソースを補完することで、成長を促進し、最高レベルの顧客サポートを提供する。

今回の買収により、DN Solutionsの連結売上高は約20億ユーロに達する見込み。両社合わせて年間13,400台以上の機械を生産しており、規模の経済と購買力の向上が期待される。ニュルティンゲン工場およびその他の国際施設への戦略的投資は、サービスと顧客サポートのさらなる強化を目指している。

今後12～24ヶ月の見通し

DN Solutionsは、合併後の段階的な統合に注力し、共通の文化と強固な連携を確立していく。HELLERの売上高の活性化は重要な目標であり、両社の強固な顧客基盤を活用する計画です。バリューチェーン全体にわたる共同開発とイノベーションのための明確なロードマップを策定し、研究開発、マーケティング、サービス、生産における大きなシナジー効果により、市場における地位をさらに強固なものにすることが期待される。

DN SolutionsとHELLERは、2026年4月にソウルで開催されるSIMTOSで初めて共同発表を行い、両社の強みを市場に提示する第一歩を踏み出す。

(DN Solutions 2026年3月)

◆ INDEX、バンガロール拠点開設でインド事業を強化

INDEXおよびTRAUBブランドで世界をリードするCNC旋盤加工機を展開するINDEXグループは、2026年2月27日、バンガロールのエアロスペースパークに統合型テクノロジーセンターを備えた新支店を開設した。これにより、同社はアジアで最も活気のある産業市場の一つにおけるプレゼンスを強化する。

新支店には、営業、技術、アプリケーション、カスタマーサービス、管理のためのオフィススペースに加え、最新のデモ機を備えた広々としたショールームが設けられている。このショールームは、顧客向けイベント、テスト加工、製品プレゼンテーションなどの会場として機能し、従来のサービス提供体制を大幅に拡充している。ウィルソン・トーマス・マネージングディレクターのリーダーシップの下、INDEXはインド市場への長期投資と顧客密着戦略を明確に示している。

INDEXグループは、インドで25年以上にわたり営業・サービスを展開してきた。2023年にINDEX Machine Tools India Pvt Ltdを設立し、設備の整った近代的な拠点を設立した。これにより、インド産業界の高まる需要にさらに的確に対応できるようになった。多軸自動旋盤、汎用旋盤、スライド式主軸台自動旋盤、ターンミルセンタ、生産旋盤など、幅広い製造ソリューションを提供するINDEXグループは、常にお客様の固有の要件に最適なソリューションを開発することを目指している。特に、アプリケーションコンサルティングとプロセス最適化、そして包括的な自動化ソリューションとサービスに強みを持っている。これにより、INDEXは自動車・部品業界、航空宇宙、機械工学、エレクトロニクス、油圧・流体技術といった分野の企業にとって最適なパートナーとなっている。INDEX Machine Tools India Pvt LtdのMD、トーマス氏にとって、バンガロール拠点における新たな機会は画期的な出来事です。彼は次のように述べている。「インド市場はINDEXグループの成長戦略にとって非常に重要だ。新しいテクノロジーセンターの開設により、コンサルティング、テスト加工から技術サポートまで、お客様をより包括的にサポートできるようになった。これにより、意思決定プロセスが大幅に短縮され、インドの産業企業とのより緊密なパートナーシップの基盤が築かれます。」

(Modern Manufacturing India 2026年3月)

◆ Hurco 社、2026 会計年度第 1 四半期決算を発表

Hurcoは、2026年1月31日を期末とする2026会計年度第1四半期の決算を発表した。同社は、2026会計年度第1四半期に346万8,000ドルの純損失(希薄化後1株当たり0.54ドルの損失)を計上した。これは、2025会計年度の同期間の432万ドルの純損失(希薄化後1株当たり0.67ドルの損失)と比較したものである。

2026会計年度第1四半期の売上高およびサービス料は4286万8,000ドルで、前年同期比354万6,000ドル(8%)の減少となった。この減少には、有利な為替変動の影響が含まれている。財務報告目的で海外売上高を米ドルに換算すると、181万3,000ドル、つまり4%となる。

グレッグ・ヴォロヴィック最高経営責任者(CEO)は、「関税引き上げにもかかわらず、米国での受注は大幅に増加した。総利益率(売上高に対する割合)は、コスト削減と抑制策を反映して改善し、運転資本効率の継続的な向上は、強固なバランスシートへの揺るぎない注力を示している。当社は財務状況において大きな進歩を遂げており、長期的な持続可能な未来を見据えた事業運営に引き続き取り組んでまいる。米国における受注活動の改善は、当社が世界市場で期待し、望んでいたことを裏付けるものである。この傾向がより広範囲に及ぶことを期待しており、2026年の回復の可能性に引き続き注力していく。」と述べている。

以下の表は、2026年1月31日および2025年1月31日を期末とする第1四半期における、地域別の純売上高およびサービス料を示している。

(単位：千ドル)

Three Months Ended January 31,				
	2025	2024	\$ Change	% Change
Americas	\$16,656	\$18,108	(\$1,452)	(8)%
Europe	20,547	21,614	(1,067)	(5)%
Asia Pacific	5,665	6,692	(1,027)	(15)%
Total	\$42,868	\$46,414	(\$3,546)	(8)%

2026会計年度第1四半期の米州における売上高は、2025会計年度の同期間と比較して8%減少した。主な要因は以下のとおりです。ミルトロニクス社の立形フライス盤および工具室用機械の出荷量減少が主な要因である。

2026会計年度第1四半期の欧州売上高は、2025会計年度の同期間と比較して5%減少した。ただし、財務報告目的で海外売上高を米ドルに換算した場合、8%の有利な為替変動の影響が含まれている。2026会計年度第1四半期の欧州売上高の減少は、主に英国およびドイツにおけるHurco VM旋盤および工作機械の出荷量減少によるものである。当四半期の機械販売の減少に加え、欧州売上高は、当社が100%所有するイタリア子会社LCM Precision Technology S.r.l. (以下「LCM」)が製造するアクセサリーの出荷量減少も反映している。

2026会計年度第1四半期のアジア太平洋地域売上高は、2025会計年度の同期間と比較して15%減少した。ただし、財務報告目的で海外売上高を米ドルに換算した場合、2%の有利な為替変動の影響が含まれている。アジア太平洋地域における売上高の減少は、主に中国とインドにおけるHurco製機械の出荷量減少によるものである。

2026年度第1四半期の受注額は4,198万ドルで、2025年度同期比189万5,000ドル(5%)増加した。また、海外受注額を米ドルに換算した際の150万6,000ドル(4%)の為替変動によるプラス効果も含まれている。

以下の表は、2026年1月31日および2025年1月31日を期末とする第1四半期における、地域別の新規受注額を示している。

(単位：千ドル)

Three Months Ended January 31				
	2025	2024	\$ Change	% Change
Americas	\$17,301	\$14,643	\$2,658	18%
Europe	18,966	19,370	(404)	(2)%
Asia Pacific	5,713	6,072	(359)	(6)%
Total	\$41,980	\$40,085	\$1,895	5%

2026年度第1四半期の米州における受注額は、2025年度同期比で18%増加した。これは主に、Hurco社製およびTakumi社製機械に対する顧客需要の増加によるものである。

2026年度第1四半期の欧州における受注は、前年同期比で2%減少した。ただし、海外受注を米ドルに換算すると、為替変動によるプラスの影響が8%含まれている。受注減少の主な要因は、ドイツ、フランス、イタリア、英国におけるHurcoおよびTakumi製機械の顧客需要の減少です。LCM社製の電気機械部品および付属品の顧客需要の増加により、減少幅は一部相殺された。

2026年度第1四半期のアジア太平洋地域における受注は、前年同期比で6%減少した。ただし、海外受注を米ドルに換算すると、為替変動によるマイナスの影響は1%未満です。アジア太平洋地域における受注減少の主な要因は、中国におけるHurco製機械の顧客需要の減少である。

(Hurco社 Press Release 2026年3月6日)

4. 展示会情報

◆ BIEMH 2026、先進製造業における世界的ベンチマークとしての役割を再確認し、閉幕

2026年3月2日からスペインのビルバオ展示会場で開催された第33回BIEMH（スペイン国際工作機械展）は、34か国から1,503社が出展し、成功裏に閉幕した。先進製造業における主要な国際展示会の一つとしての地位を確立した。

BECプレスルームで行われた閉会記者会見には、BECマネージングディレクターのXabier Basañez氏、BIEMHディレクターのM^a Carmen Gorostiza氏、AFM ClusterプレジデントのJosé Pérez Berdud氏、AFM ClusterマネージングディレクターのXabier Ortueta氏、AIMHEプレジデントのJosé Ignacio Ortiz de Urbina氏が登壇した。

第33回BIEMHは、6つの展示ホールに先進的かつデジタルな製造技術を駆使するメーカーが多数出展し、際立った存在感を示した。国内外メーカーの最新工作機械、3Dプリンター、あらゆる種類の部品、最先端の切削工具、そしてプロセスとサービスのデジタル化、自動化、ロボット化のための幅広いソリューションなど、革新的な製品が満載されたBECの会場は、5日間の会期中、多くの来場者で賑わった。機械、部品、生産システムの印象的な展示に加え、今回は多彩なカンファレンスプログラムも提供された。

工作機械ビエンナーレの期間中、AFM ClusterとBECが主催するBIEMH先進製造イノベーション賞が、IBARMIA、INTERMAHER、LANTEK、SICNOVA、SORALUCE、ZAYERに授与された。

AFM Clusterのホセ・ペレス・ベルドゥード会長は次のように述べた。

「BIEMHは、産業競争力の決定的な鍵となる、ダイナミックで革新的、そして技術的に高度なセクターの強さを改めて示した。

65年を経てもなお、この工作機械ビエンナーレは、企業の才能と能力を披露する素晴らしい場であり、社会の発展における産業の役割を強化する上で重要な要素であり続けている。」

一方、AIMHEのホセ・イグナシオ・オルティス・デ・ウルビナ会長は次のように述べた。

「3月への開催変更は、成功の鍵となった。年初開催であったため、多くのお客様が新会計年度に向けたプロジェクトをお持ちで、今後数ヶ月間の事業運営に繋がると期待している。

BIEMHは、先進製造エコシステムのバリューチェーンを特徴付ける緊密な連携と相互補完性を反映し、メーカーと輸入業者の出会いの場としての地位を改めて確立した。」

開会式は、レヘンダカリのイマノル・プラダレス氏が議長を務め、スペイン政府の産業大臣ジョルディ・ガルシア・ブルステンガ氏、レヘンダカリ副大臣兼経済・労働・雇用大臣ミケル・トーレス氏が出席したほか、同フェアには、バスク州政府の産業・エネルギー転換・持続可能性大臣兼BEC会長ミケル・ハウレギ氏、ギプスコア州知事エイデル・メンドーサ氏、スペイン国民党党首アルベルト・ヌニェス・フェイホ氏、EBB会長兼PNV執行部員アイトール・エステバン氏、PSE-EE事務局長エネコ・アンデュエサ氏、EH Bildu事務局長アルナルド・オテギ氏、バスク州政府の産業振興副大臣アンドイツ・コルタ氏、経済振興・戦略プロジェクト担当副大臣ウナイ・アンデュエサ氏らも来場した。ビスカヤ県経済振興担当副知事アイナラ・バスルコ氏、アラバ県経済開発・イノベーション担当副知事サライ・サラテ氏も出席した。

(AFM Cluster Press Release 2026年3月10日)

◆ TMTS 2026 が台中でスマート製造を中心に据える

台湾国際工作機械展示会(TMTS 2026)は2026年3月25日～28日まで台中に戻り、新たに開館した台中国際コンベンション・アンド・エキシビションセンター (TICEC)で初開催され、展覧会にとって重要な新たな章を迎える。

水南貿易経済園内に位置する新設のTICECは、台湾の工作機械クラスターの中に位置しています。会場の選択はよく考えられており、製造拠点、サプライチェーン、市場が密接に共存している場所である。

AI と持続可能性への注力

「AI駆動の持続可能な製造」をテーマに、TMTS 2026は2024年に確立されたデジタルトランスフォーメーション(DX)とグリーントランスフォーメーション(GX)の基盤を築き上げる。この展示では、最先端の工作機械、スマート製造システム、自動化技術、主要コンポーネントが紹介され、製造プロセスにおける人工知能の統合と持続可能性戦略にスポットライトを当てる。

10のテーマゾーン、1つの統合ビジョン

TMTS 2026は、AI対応生産、スマート接続、人と機械の協働、デジタルツイン、ビッグデータ応用、エネルギー効率、資源最適化、グリーンサプライチェーン、環境認証、持続可能な製品デザインなどの分野をカバーする10のテーマゾーンに分かれる。これらのゾーンは、スマート製造と長期的な持続可能性の推進に対する製造業者の共同のコミットメントを反映している。

静的ディスプレイを超えて

TMTS 2026の重要な転換点の一つは、3つの戦略的アプローチに導かれたエコシステムベースの展示モデルです。まず、個々の機械展示にとどまらず、出展者は実際の解決策や測定可能な成果を提示することが奨励される。

次に、ライブデモンストレーション、VR/AR工場見学、インタラクティブな加工チャレンジなど、没入型の体験を通じて静的ディスプレイを強化します。第三に、TMTSは業界を超えた協力を重視し、機械製造者、部品サプライヤー、AIソフトウェア開発者、持続可能性および認証機関を結集して統合製造ソリューションを実証している。

台湾のグローバル製造業の役割強化

台湾工作機械工業会(TMBA)によると、TMTS 2026は単なる展示会以上の意味を持っている。これは台湾のインテリジェント製造、グローバルな関与、持続可能な成長に向けた進展を反映している。このショーは国内外のバイヤーや出展者からの強い参加が期待されています。

今後も台中を戦略的な拠点として活用し、世界の製造エコシステムを結びつけ、「生産を展示する」モデルを活用してスマート製造の新時代を切り開いていく。

(Modern Manufacturing India 2026年3月)

◆ IMTEX2027 日本パビリオン出展募集

インド最大級工作機械展



IMTEX 2027

日本パビリオン
出展募集

日程:2027年1月21日(木)~27日(水)

会場:バンガロール・国際展示場(BIEC)



主催

会場



インド工作機械工業会

Indian Machine Tool
Manufacturers' Association



バンガロール国際展示センター



「メイク・イン・インド」

同時開催



インド首相
ナレンドラ・モディ

製造業の発展による経済成長が期待される、
これからのインド

「メイク・イン・インド(インドでモノづくりを)」
を新たな産業政策に掲げ、モディ首相は、製造業を
軸とした経済成長を実現しようとしています。政府が
規制緩和やインフラ整備に積極的に取り組んでいる
ことから、世界のメーカーがインドでの事業拡大に
動き始めています。



ツールテック展示会



デジタルマニュファクチャリング展示会

日本パビリオン共同運営



一般社団法人

日本工作機械工業会

日本代表事務局



特定非営利活動法人 日印ビジネスビューロー

運営



日印コンサルティング株式会社

IMTEX 2027(インド工作機械展) 出展のご案内



出展費用

A パッケージブース 365USD/m² (Min.15m²) +TAX

- ① 貴社名の展示会ガイドブック記載
- ② スペース
- ③ 出展者バッジ (数量限定)
- ④ 受付カウンター1台
- ⑤ 会議用丸テーブル1台
- ⑥ 椅子3脚
- ⑦ スポットライト (100w) 4個
- ⑧ 電源1ヶ所
- ⑨ ゴミ箱1ヶ所
- ⑩ カーペット



A パッケージブース (最小12m²)

B ロースベース 330USD/m² (Min.36m²) +TAX

- ① 貴社名の展示会ガイドブック記載
- ② スペース
- ③ 出展者バッジ (数量限定)



B ロースベース (土地のみ) (最小36m²)

C 1コーナー出展 1,500USD / 1コーナー + TAX

展示台とパネルがセットになった出展です。
パネル印刷費用は含まれています。
パネルデザイン費用と輸送費用は含まれておりません。

※ 上記A,B小間費用にはインド消費税18%が別途掛かります。
※ 電気料金は別途費用になります。
※ 角ブースは別途費用がかかります。
2面オープン+20% / 3面オープン +30% / 4面オープン +50%
* 運営管理費用15%

日本パビリオン

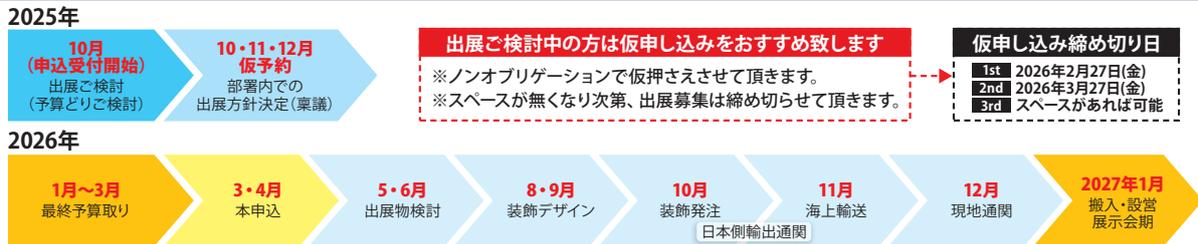
装飾

- 装飾業務
設計・施工・デザイン/レイアウト・企画運営進行管理・現場監督
- その他の関連業務
 - 制作物業務
パンフレット・フライヤー・製品カタログ/パネルデザイン/運営進行管理
 - 映像業務
VJ・ビデオ製作・ナレーション/吹き替え・レイアウト企画運営進行管理
 - 運営関連業務
セミナー・ノベルティ・コンパニオン・通訳・ナレーター・レセプションアレンジ

輸送

- 日本からの一括輸送を致します。
輸出通関申告費用/税関検査関係費用/税関出張費用/検査立会費用
カルネ手配費用/船積み諸経費/保税上屋入出庫費/保税上屋運送費
コンテナ積み込み費/コンテナ維持費/海上運賃/船積書類
及び通関書類/輸入地費用/維持費/貨物上屋入出庫費
コンテナ引取費/会場内運搬費/開梱費用/据付補助費
空箱コンテナヤード運送費/その他現場運営管理費
- *展示会主催者の規定によりオフィシャルフォワードが指定されております。

出展までの日程フロー



展示会コンサルティング及び実務サポートのご案内

- ① コンサルティング・リサーチ(売上に直結する)
- ② マーケティング・販売戦略・企画・運営・実働
- ③ プロモーション・PR (展示会事前PR・ミーティングセットアップ)
- ④ 展示会企画運営実行
- ⑤ セミナー・コンファレンス・学会企画運営実施
- ⑥ 貿易実務・ロジスティック・据付
- ⑦ 法人設立 (事務所/ショールーム/工場ロケーション提案等)
- ⑧ BIS取得サポート
- ⑨ 人材サポート (高度技術スタッフ、技術指導員、エンジニア、SE等)

お申し込み・お問い合わせ

出展申込は右記QRコード、またはメールでご連絡ください。 [出展申込リンク](#)



日本代表事務局 運営

JJIM 特定非営利活動法人 日印ビジネスビューロー

JR 日印コンサルティング株式会社

〒107-0052 東京都港区赤坂1-3-13 溜池鈴木ビル3F

担当 安井 ☎ 090-9325-3456 橋倉 ☎ 080-6516-4331 ✉ info@ji-consulting.jp

HP <https://ji-consulting.jp>

一般社団法人 日本工作機械工業会

JMTBA

〒105-0011 東京都港区芝公園3-5-8 機械振興会館1階

担当 本多 ☎ 03-3434-3961 (代表)

✉ honda@jmtba.or.jp

5. その他

◆ユーザー産業動向

RWTH アーヘン、電極スラリーのリアルタイム計測技術を開発へ

独ノルトライン・ヴェストファーレン(NRW)州のRWTHアーヘン工科大学に設置されたProduction Engineering of E-Mobility Components(PEM)は16日、ドイツの計測機器メーカーSuragusと共同で、リチウムイオン電池向け電極スラリーを混練工程中にリアルタイムで評価する新手法の開発に着手すると発表した。連邦政府の支援を受け、2028年半ばまで実施する。

対象はアノード／カソード製造で用いるスラリー。活物質やバインダー、導電助剤を水系または有機溶媒で混練したペーストで、従来は塗工・乾燥後にラボで電気特性を測定していた。このため評価に時間を要し、工程への即時反映が難しかった。

プロジェクト「MixItUp」では、混練中に電気伝導率や均質性、粒子分布を取得するインライン計測を構築する。渦電流センサーによる非接触測定とFPGAベースのリアルタイム信号処理を組み合わせ、取得データをプロセス条件と照合。連続監視や早期異常検知、条件最適化につなげる。

まず試験装置で妥当性を検証し、その後パイロットラインに展開する。最終的には実生産環境で適用可能な産業用システムを構築し、少なくとも2件の事例で実証する計画だ。燃料電池用機能性ペーストへの応用も視野に入れる。

(electrive.net/ 2月16日付)

<https://www.electrive.net/2026/02/16/pem-feilt-an-echtzeit-messung-fuer-slurrys-in-der-batterieproduktion/>

DHL Supply Chain、スロバキアにEV 専門物流拠点 中欧初

DHL Supply Chainは16日、スロバキアのセネツに電気自動車(EV)向け専門拠点「EV Center of Excellence」を開設したと発表した。世界で20拠点目となり、中欧では初めて。

新拠点の延べ床面積は約2万6,000平方メートル。リチウムイオン電池やEV部品、関連機器を対象に、保管、入出庫、輸送管理まで一貫した物流サービスを提供する。危険物規制に対応した電池ハンドリング体制や品質管理機能も備える。

同社は郵便・小包配送で電動車両の導入を進める一方、自動車OEMや電池メーカー、サプライヤー向けにEV特化型サプライチェーンの構築を支援してきた。今回の拠点開設により、電動化の進展に伴う物流需要の増加に対応する。

スロバキア法人のティボル・ミフチ氏は、中欧初のEV専門拠点としてワンストップ体制を整えたと強調。持続可能な物流ソリューションを強化し、電動モビリティのエコシステムを支える中核拠点と位置付ける。

(electrive.net 2月16日付)

<https://www.electrive.net/2026/02/16/dhl-supply-chain-eroeffnet-20-kompetenzzentrum-fuer-elektrofahrzeuge/>

インフィニオンの SiC 半導体をトヨタが採用

半導体大手の独インフィニオンは9日、トヨタ自動車に炭化ケイ素(SiC)パワー半導体を供給すると発表した。エグゼクティブ・バイス・プレジデント兼オートモーティブ・チーフセールス・オフィサーのペーター・シェーファー氏は「世界最大手の自動車メーカーであるトヨタに選定されたことを大変誇りに思います。航続距離、エネルギー効率および性能を高めるSiCテクノロジーは、未来のクリーンなモビリティに非常に重要な役割を果たします」と述べた。

トヨタの新型「bZ4X」にSiCパワーMOSFET「CoolSiC MOSFET」が採用された。車載充電器(OBC)とDC/DCコンバーターに搭載される。低損失、高耐熱、高耐圧を特徴とするSiCの効果で、航続距離の延伸と充電時間の短縮に寄与するとしている。

(プレスリリース 2月9日付)

<https://www.infineon.com/ja/market-news/2026/infatv202602-046>

廃車リサイクルの事業モデル構築へ、BMW が協業

自動車大手の独BMWと独小売大手シュヴァルツ・グルッペのリサイクル子会社プレゼロは5日、廃車リサイクリングの事業モデル構築に向け戦略協業すると発表した。廃車のリサイクルを拡大し、省資源とサプライチェーンのレジリエンス強化につなげる。プレゼロのカルステン・デュルファー最高経営責任者(CEO)は「自動車開発とリサイクリングの現実との溝を埋める」と語った。

BMWは自社のリサイクリング・解体センターで得られた知見と材料・製造分野の専門技術、プレゼロは欧州の廃棄物物流と仕分けに関するノウハウをそれぞれ持ち寄る。まずは自動車部品が可能な限り長期間、使用されるようにする。その後はさらに、画期的なプロセス技術の開発を通して再資源化率を高めていく。スケール化が可能なソリューションを開発する。

(プレスリリース 2月5日付)

<https://www.press.bmwgroup.com/deutschland/article/detail/T0455391DE/bmw-group-und-prezero-treiben-die-kreislaufwirtschaft-in-der-europaeischen-automobilindustrie-voran?language=de>

ヘンケル、セカブと提携 接着剤原料をバイオ由来に転換

独化学大手のヘンケルは5日、生物由来化学品を手がけるスウェーデンのセカブと戦略パートナーシップを締結したと発表した。接着剤に使用する主要原料を化石燃料由来からバイオ由来へ段階的に切り替え、同社および顧客のカーボンフットプリント削減を図る。

セカブは再生可能資源由来のバイオエタノールを基礎原料に、酢酸エチルやアセトアルデヒド、酢酸などを製造する。これらは包装材や塗料、医薬品、化粧品など幅広い産業用途に供給している。

今回の提携により、ヘンケルは接着剤の溶剤などに用いる化石燃料ベースの酢酸エチルを、セカブが供給するバイオベース品に置き換える。原料段階での脱炭素化を進めることで、製品ライフサイクル全体の排出削減につなげる考えだ。

(プレスリリース 2月5日付)

<https://www.henkel.de/presse-und-medien/presseinformationen-und-pressemappen/2026-02-05-henkel-und-sekab-gestalten-die-zukunft-mit-biobasierten-rohstoffen-2121478>

オルレン、ピワに一般向け水素ステーション開設 国内5カ所目

ポーランドの石油・エネルギー大手オルレンは2日、ヴィエルコポルスカ県ピワに国内5カ所目となる一般向け水素ステーションを開設したと発表した。水素バスやトラック、乗用車が利用できる。

充填圧力は350気圧と700気圧の2方式に対応。貯蔵容量は480キログラムで、1日あたりバス10台と乗用車30台への充填が可能という。

同施設は、欧州連合(EU)の助成を受ける「クリーンシティ：ポーランド水素モビリティ計画」の一環。第1期では2024年6月にポズナニで初の拠点を開設した。ピワは第2期に位置づけられ、ビエルスコ・ビャワやゴジュフ・ヴィエルコポルスキ、ヴァウブジフ、クラクフ、ヴウオツワヴェク、グディニャ、ワルシャワとともに整備が進む。第3期ではさらに16カ所を追加する計画だ。

オルレンは戦略「オルレン2030」に基づき、2030年までにポーランド、チェコ、スロバキアで自動車および鉄道向け水素充填施設を100カ所以上整備する方針。再生可能エネルギーによる電解水素や一般廃棄物由来の低炭素水素を、欧州の水素ハブ網から調達する。

(プレスリリース 2月2日付)

<https://www.orlen.pl/en/about-the-company/media/press-releases/current/2026/february-2026/orlen-expands-its-hydrogen-infrastructure-a-new-refuelling-station-opens-in-Pila>

Plattform Industrie 4.0、産業AIと技術主権巡り討議へ 3月にベルリンで会合

独Plattform Industrie 4.0の作業部会「Referenzarchitekturen und Standards」は3月12日、ベルリンでネットワークデーを開催する。産業用人工知能(AI)やオープンソース、技術主権を巡る緊張関係を主題に、デジタル主権と国際競争力の両立を議論する。なお、Plattform Industrie 4.0は、ドイツ政府と産業界が共同で運営する産業デジタル化の推進組織で、「インダストリー4.0(第4次産業革命)」の概念を具体的な標準や実装へ落とし込む役割を担う。

欧州企業は、産業のデジタル変革が加速するなかで、主権確保と国際連携のバランスを再定義する局面にある。技術革新の進展や政策枠組みの整備、現場実装の可否が交錯し、とりわけ産業AIの高度化とデータ連携の拡大が新たな課題を浮き彫りにしている。

関連イニシアチブの多くは同様の技術レイヤーを扱うが、目的やガバナンス、成熟度、適用分野には差がある。会合では公開形式で、重複領域や空白、相乗効果、目標間のトレードオフを体系的に整理する。

参加予定はPlattform Industrie 4.0関係者のほか、Manufacturing-X、IPCEI-CIS、Sovereign Tech Fund、Deutschland Stackなど。技術基盤や標準化戦略、エコシステム設計に関する共通理解を形成し、今後の標準化活動や政策提言に反映させる方針だ。

(プレスリリース 2月16日付)

<https://www.plattform-i40.de/IP/Redaktion/DE/Kurzmeldungen/2026/03-ag1-netzwerktag.html>

MEMPHIS Electronic、embedded world 2026 出展 メモリ供給見通し提示

独半導体メモリ専門商社のMEMPHIS Electronicは、3月10～12日にニュルンベルクで開催される組み込み技術見本市「embedded world 2026」（ホール1、ブース340）に出展する。開発者や調達担当者、経営層を対象に、最新のメモリ市場動向と供給見通しを提示する。

半導体生産の地域シフトや地政学的緊張を背景に、メモリ市場では需給逼迫と構造変化が進む。産業機器や車載など長期供給が前提の分野では、安定調達が重要課題となっている。同社は18社超のメモリメーカーのロードマップ情報を共有し、製品設計や調達判断の基礎データを提供する。

レガシーDRAMではDDR3、DDR4、LPDDR4の安定確保を支援。複数メーカーの認定取得やサプライヤーとの早期連携、長期計画策定を通じ、ライフサイクルの長い用途を下支えする。

次世代移行ではDDR5、LPDDR5への転換を助言。技術要件や認定負荷、コスト、製品寿命を総合評価し、段階的な移行戦略を設計する。

非揮発メモリではFRAMやMRAMの適用を提案。低消費電力や高いデータ保持性、低遅延といった特性を活用し、既存メモリを補完する設計自由度の拡大を訴求する。

(elektroniknet.de 2月16日付)

<https://www.elektroniknet.de/embedded/hardware/speicher-ic-roadmaps-und-verfuegbarkeiten.230272.html>

IQM、54量子ビット機を独LRZに設置 HPC統合を実証

フィンランドの量子計算機メーカーIQMは13日、54量子ビット(qubit)の量子計算機をバイエルン州ガーヒングのライプニッツ計算センター(LRZ)に設置したと発表した。高性能計算(HPC)サーバ群の近傍に配置し、ハイブリッド計算環境での運用を前提とする。プロジェクト名は「Euro-Q-Exa」。

同装置はIQMの「Radiance」技術を採用し、レイテンシの最小化と演算性能の最大化を図る。可変カップラと高忠実度ゲートを備え、格子トポロジーを実現する設計。大規模アルゴリズムの実行に最適化し、クライオスタットによりマイナス273度未満の超低温環境で量子ビットの安定動作を確保する。

従来、最大50量子ビット規模の量子プロセッサ(QPU)はスーパーコンピュータ上でのシミュレーションが可能とされてきたが、54量子ビットでは必要メモリ容量が急増し、単一計算での再現は困難になる。量子ビットは理論上、1つ増えるごとに計算能力が倍増するためだ。

今回の導入は、HPCと量子計算の境界領域を検証する実証段階と位置付けられ、両者の統合運用の可能性を探る。

(elektroniknet.de/ 2月13日付)

<https://www.elektroniknet.de/halbleiter/das-ist-der-neue-quantencomputer-am-lrz.230227.html>

Telemeter Electronic、車載レーダ向け3Dプリント吸収体フィラメント

独Telemeter Electronicは12日、車載レーダ向けに3Dプリント可能な電磁波吸収体フィラメントを発表した。76～81GHz帯に対応し、50～100GHz(E～Wバンド)もカバーする。

材料はPLA系の「MW-PLA」で、直径1.75ミリメートル。一般的なFDM方式3Dプリンターで加工できる。推奨条件は押出温度230度、ヒートベッド60度、造形速度約45ミリ毎秒。CADデータから直接造形でき、金型を用いずに試作や用途別部品を短納期で製作できる。

特徴は、造形ジオメトリにより電磁減衰特性を調整できる点。壁厚や内部構造、充填率を可変とし、反射減衰や透過減衰を用途に応じて制御する。共振キャビティやシールド、アンテナ間のデカップリング部材、レーダやセンサー近傍部品などへの適用を想定する。

密度は0.82グラム毎立方センチメートルと軽量。従来型吸収体の補完用途と位置付け、周波数帯や実装条件に応じた減衰設計のコンサルティングやカスタム対応も提供する。

(3druck.com 2月12日付)

<https://3druck.com/3d-druckmaterialien/telemeter-bringt-fdm-filament-fuer-radarabsorber-bei-76-81-ghz-und-bis-100-ghz-35153667/>

O2 テレフォニカ、AI 対応 5G / 6G 網で EU 助成申請

独通信大手のO2 Telefónicaは2月6日、主導する独研究・産業コンソーシアムがEU助成を申請したと発表した。モバイル網に主権的AI基盤を構築する計画で、事業名は「SPINE」。想定規模は約4,300万ユーロに上る。O2 Telefónicaが全体を統括する。

本件は、欧州委員会が調整するIPCEI AI (Important Project of Common European Interest - Artificial Intelligence)への提案である。産業・社会のデジタル化を支える5G/6G網をAI支援型へ高度化し、高信頼・低遅延・高効率を満たす設計とする。あわせて、データ主権とレジリエンスの確保を目指す。

参画機関は、Fraunhofer FOKUS、Fraunhofer HHI、Fraunhofer IIS、ダルムシュタット工科大学 (TU Darmstadt) のほか、Nokia、Capgemini、Sopra Steria、LTIMindtree、AiVader、Highstreet Technologiesなど。

技術面では、エッジでのリアルタイム処理や決定論的ネットワーク、エネルギー効率化、自動化の高度化を推進する。用途は自動・コネクテッドモビリティ、スマートエネルギー、産業生産、公共安全、XR、遠隔医療などを想定する。次世代AIが求める大容量データ処理や超低遅延、網内自律制御に対応するため、既存アーキテクチャを刷新し、欧州標準に基づく主権的AI対応モバイル網の確立を目指す。

(プレスリリース 2月6日付)

<https://www.telefonica.de/news/corporate/2026/02/europaeisch-effizient-intelligent-o2-telefonica-bewirbt-sich-um-eufoerderung-fuer-die-entwicklung-souveraener-kifaehiger-mobilfunknetze.html?cat=pressemitteilungen>

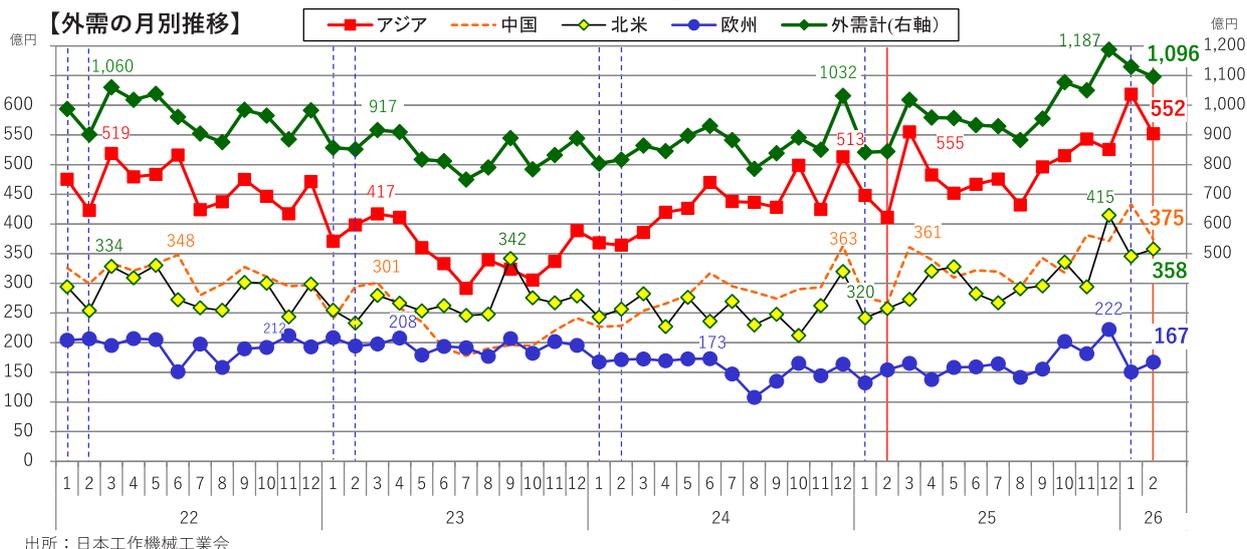
6. 日工会外需状況（2月）

外需【2月分】

1,095.8億円（前月比 △ 3.0% 前年同月比 + 29.8%）

外需額

- ・前月比は2カ月連続減少も、前年同月比では17カ月連続の増加、5カ月連続の1,000億円超え、2月期として初めて1,000億円超えと好調な推移。
- ・外需は、国際情勢の不透明感が払拭されない中でも、欧米の投資喚起策効果と、アジアで投資が持続し、増勢は続いている。



外需【2月分】

主要3極別受注

① アジア

アジア計は、通例春節の影響が色濃い季節であるも、初めて2月期に550億円超えとなった。

- 東アジアは、4カ月連続400億円超え。
(連続して400億円を超えるのは2021年3~5月期以来)
- 中国は、4カ月連続350億円超え。2月期としては初めて350億円超え。(350億円は、2009年 現在までの月平均値)
- その他アジアは10カ月連続の100億円超え。
- インドは11カ月ぶりの70億円超え。2月期に70億円超えは初めて。

② 欧州

欧州計は、6カ月連続150億円超え。

- ドイツは、2カ月連続の40億円割れ。
- イタリアは、3カ月連続25億円を下回るも前年同月比では8カ月連続増加と堅調な推移。

③ 北米

北米計は、13カ月連続の250億円超。3カ月連続300億円超え。

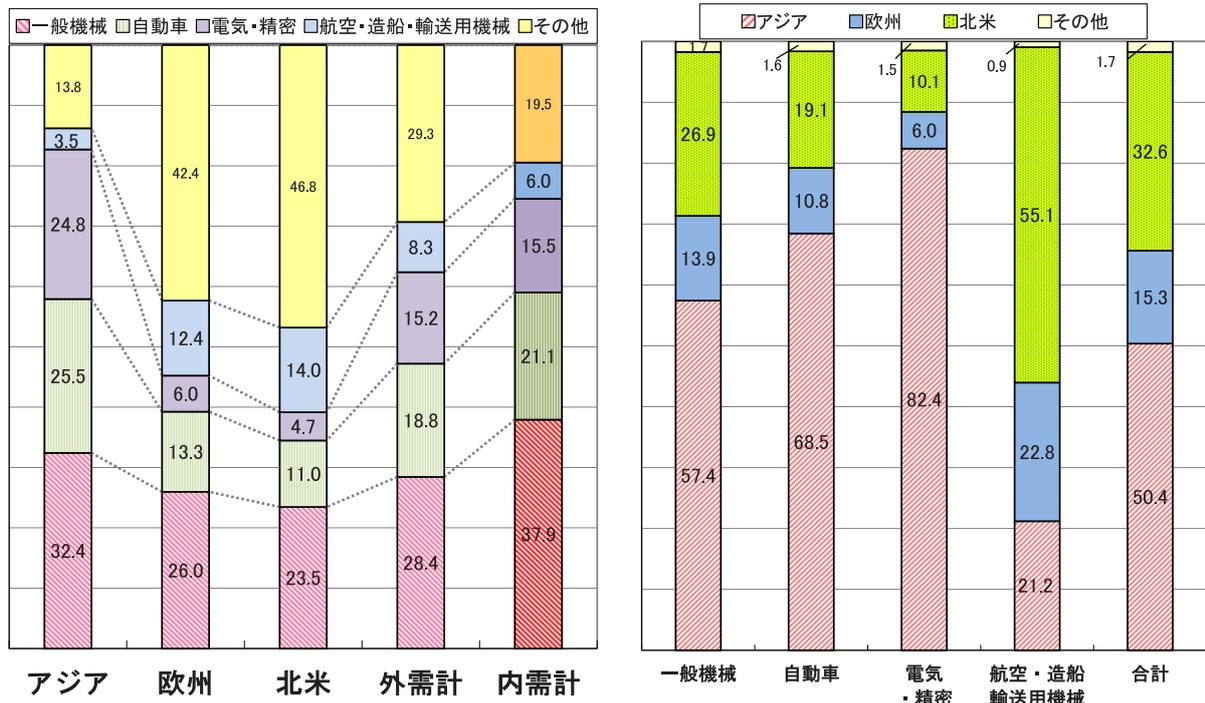
- アメリカは、2025年12月期に次ぐ、過去2番目の受注額。
- メキシコは、2カ月ぶりの20億円超え。2月期の受注額としては過去最高額（2018年2月20.9億円）

国・地域	受注額 (億円)	前月比 (%)	前年同月比 (%)
アジア	552.0	△10.8 2カ月ぶり減少	+34.3 6カ月連続増加
東アジア	423.5	△14.4 2カ月ぶり減少	+34.8 6カ月連続増加
韓国	30.0	+5.7 2カ月連続増加	△1.5 2カ月ぶり減少
中国	374.6	△13.5 2カ月ぶり減少	+40.4 23カ月連続増加
その他アジア	128.5	+3.9 3カ月連続増加	+32.5 2カ月ぶり増加
インド	78.8	+34.9 2カ月ぶり増加	+46.2 2カ月ぶり増加
欧州	167.1	+11.0 2カ月ぶり増加	+8.4 8カ月連続増加
ドイツ	39.5	+3.7 2カ月ぶり増加	+4.2 7カ月連続増加
イタリア	21.7	△0.1 2カ月ぶり減少	+32.1 8カ月連続増加
北米	357.7	+3.5 2カ月ぶり増加	+39.0 7カ月連続増加
アメリカ	312.1	+0.4 2カ月ぶり増加	+35.5 13カ月連続増加
メキシコ	21.3	+32.2 2カ月ぶり増加	+113.5 6カ月連続増加

出所：日本工作機械工業会

外需【2月分】

主要3極別・業種別受注構成

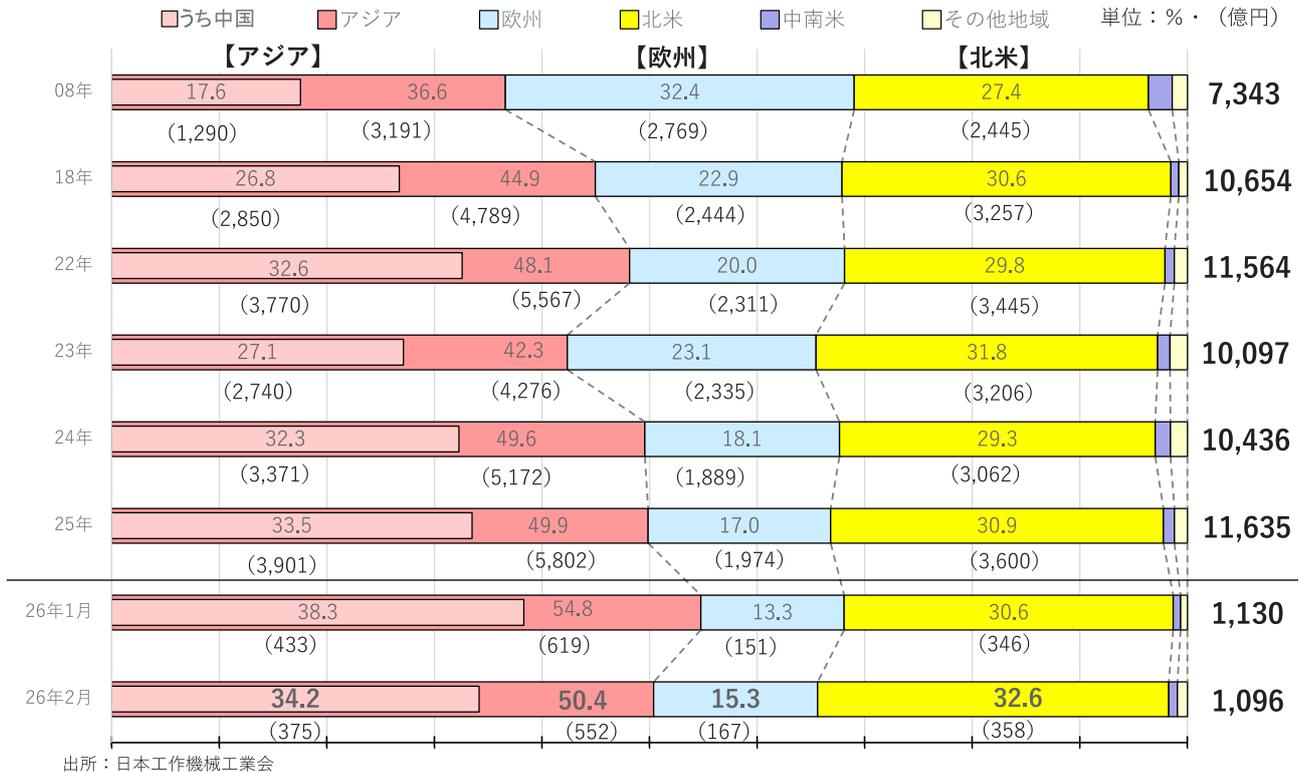


出所：日本工作機械工業会

出所：日本工作機械工業会

外需 地域別構成の推移

3カ月連続北米比率が30%超え。



出所：日本工作機械工業会



ジャパン・パビリオンおよび 商談支援講座への 出品企業を募集します!

《 世界4大工作機械展示会 》



IMTS2026

〔開催地〕 米国・シカゴ

〔会期〕 2026年9月14日(月)～19日(土)

プレゼンスと集客力

日本企業がまとまって出品するスケールメリットによって、
単独出品時に比べて高い集客力が期待できます。

出品費用が無料

日本政府が日本の産業を海外へPRするための広報ブースとして
設置される広報展となり、出品料は無料となります。
※出品料に関する詳細は募集ページ下部に掲載の出品案内書4ページをご参照ください。

手続きの安心サポート

初めての海外展示会への出品でも、出品準備から
展示会終了まで、ジェトロが安心サポートします。

充実した支援内容

商談マッチングサービス、広報資料の作成、
国内外のメディア等への広報を行います。

出品申込完了締切: 2026年4月27日(月) 17:00 日本時間

IMTS 2026 ジャパン・パビリオン 検索

※ブース詳細・申込の流れは裏面をご覧ください。

イベントページ
はこちら



《世界4大工作機械展示会》

IMTS2026



IMTS 2018 ジャパン・パビリオン、IMTS 2024 公式ウェブサイト

[出品料・出品形式]

出品料：無料

- **ジェットロが負担する費用**：引き合い情報収集提供、現地での商取引に関するアドバイス、ジャパン・パビリオンのデザイン・施工／設営／運営、ダイレクトリー作成、規定電気量
- **ジェットロの負担に含まれない費用**：出品物の輸送（保険料含む）・関税及び消費税、出品者／来場者バッジ手配、渡航費（宿泊費、食費、通信費含む）、展示装飾に係る追加費用（規定以上の電気量含む）、ブースアシスタント
- ※ 出品料に関する詳細は募集ページ下部に掲載の出品案内書4ページをご参照ください。

出品形式：広報展

- 統一デザインによる基本装飾を施した共用スペース内に、出品者の商品や広報素材を展示することで、日本の優れた商品やサービス、コンテンツ、技術などをPR。各社の出品スペースに壁による仕切りを設けない、共有スペース形式。

[商談支援講座概要] *講座Day1～Day4はオンライン(Microsoft TeamsもしくはZoom)で実施予定

Day 1	6月9日(火) 8時00分～9時00分	<ul style="list-style-type: none"> ● 米国市場概況説明・展示会出品ノウハウ ● (Day2までの事前課題) 商談資料(英語版)の作成
Day 2	6月18日(木) 9時00分～10時00分	● 商談資料アドバイス
Day 3	7月13日(月)～17日(金)のうち1社1時間 (実施日時は参加決定後に調整)	● 商談資料ブラッシュアップ
Day 4	7月27日(月)～31日(金)のうち1社1時間 (実施日時は参加決定後に調整)	● 個別メンタリング

[申込の流れ]



*その他詳細は、募集ページや募集ページに添付された出品案内書よりご確認ください。

【お問い合わせ先】 日本貿易振興機構(ジェトロ)
 海外展開支援部 販路開拓課 機械・環境産業班 (担当: 望月、西田、飯塚)
 〒107-6006 東京都港区赤坂1-12-32 アーク森ビル 6階
 Tel: 03-3582-4631 E-mail: mono@jetro.go.jp

IMTS 2026 ジャパン・パビリオン **検索**



イベントページは
こちら



出品案内書は
こちら